

京古本や往来

古書とのつきあい

吉田 光 邦

京大に入ったのが昭和十七年、それから京都で書物とのつきあいはじまったのだから、数えればずいぶん長い時間である。はじめは宇宙物理学の学生だったので、せっせといわゆる外国の原書を買ったものだ。しかし戦争中だったので、そうしたものはなかなか入りにくくなっていた。

そのころ上海版といわれて、実に粗末な印刷の、海賊版の物理書が出来まわっていた。それが神戸のトーアロードの書店で扱っているというので、出かけていった記憶もある。今でも一、二冊は書庫に残っているのだが、あしたものを記憶している人は今、どれだけのだろう。

そのころは聖護院の近くに下宿していたので、よく丸太町通りの

古書店を歩いた。疎開騒ぎのはじまっていたところで、思いがけぬ書物が積まれたりしていた。あるときは有名な歌人に献呈された歌集、詩集の多くを見つけたことがある。恐らく疎開時に処分されたのだらう。その何冊かは、今もわたしの手もとにある。

熊野神社のあたりに、夜店があり古本もならんでいた。そのなかから発禁となった雑誌を入手したこともある。京都ではそうしたもののについての規制は、まだゆるやかだったのかも知れない。しかし昭和二〇年のはじめ、戦災で名古屋の家が全焼し、家に置いていたすべての書物を失ったときは、いさか茫然とした。失った書物のいくつかは今もめぐりあうことがない。そして奇妙にそうした書

物は、記憶の底にのこっている。

大学を出てからわたしは一八〇度研究方向を転換して、歴史の道を歩みはじめた。そして意を新にして、ふたたび古書店を時折歩くようになっていた。しかし戦争中の企業整備などで古書店の地図は大きく変ったが、同時に珍しいものも目につくようになった。

そんな時代に買い集めたのが、竹久夢二のものである。このごろはすばらしい人気で、どここの目録を見ても、眼をみはるような値段がついているけれど、当時は安いものであった。ところがふしぎなことに偶然のことから、夢二の遺子、竹久虹之助氏と知りあいにあった。彼は寺町のせまい路地の奥に、東京を焼けただされて京都に住んでいたのである。

ある日彼がふいにやってきて、夢二の版画を一手もちこんできた。そして全部売りたいという。だがちょうど新田切替のときで、とても買う資金はない。ほんとうに残念であった。彼がひろげてみせた多くのあでやかな版画は、今でも時々たま思いだすことがある。虹之

季 刊

第 27 号

京都古書研究会
発 行

〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内

振替 京都 0-22132
年間購読料 500円
(送料込)

頒 価 150円

助氏はやがて京都を去り、その後亡くなった。思い出の人である。書庫の一隅に白秋の詩集「思ひ出」がある。トランプを表紙にあしらった、凝った装丁の有名なものだ。これを手に入れたこともなつかしい。これは京大のすぐ近くの古書店の主人の愛蔵本であった。それが欲しくて、何度も主人にたのみこんだ。わたしとあまり年のちがわぬ若い人であった。そしてとうとう頒けてもらった。そのときわたしは手さびで描いていた風景画を一枚、お札に差し上げたこともある。しばらくの間、その画は店頭にかかっていたが、やがて主人も亡くなつて、店は閉じられてしまった。あの画は今どこにあるだらうか。

けれどもこのごろは、あまりに忙しくなりすぎて、ゆつくりと古書店をめぐる暇が少なくなった。そして専ら目録ばかりに、眼をさらすようになってしまった。いささか寂しいことである。しかし注文した書物が小包となって届き、それを急いで開くときは、今も心騒ぐ思いがある。それとともに思い出も積み重なってゆくのがうれしい。

(京大人文科学研究所所長)

謹賀新年

京都古書研究会加盟店

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 赤尾
文照堂
電話二二一五八八 | 石川
古本
電話二二一五八八 | 井上
古本
電話二二一五八八 | 其
中
電話二二一五八八 | 京極
書房
電話二二一五八八 | 三密
書房
電話二二一五八八 | シルヴァン
書房
電話二二一五八八 | 大善
書房
電話二二一五八八 | 竹岡
書房
電話二二一五八八 | 谷方
書房
電話二二一五八八 | 東山
書房
電話二二一五八八 | 萩屋
書房
電話二二一五八八 | 福田
書房
電話二二一五八八 | 藤井
書房
電話二二一五八八 | 文庫
書房
電話二二一五八八 | 文藻
書房
電話二二一五八八 | 八木
書房
電話二二一五八八 | 山崎
書房
電話二二一五八八 | 臨川
書房
電話二二一五八八 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|

私の美術書誌(一)

文華堂 中山 善 次

出版者の今昔

近年の出版界で眼につくことは、洪水のようにと日刊紙が指摘している如く日々出てくる本が多い。そこには吾々が特殊視している美術本図録類の出版も結構多く、むしろ氾濫気味の様相を呈している。どうしてこのような事態が続くのかを考えると、特に戦後美術出版物の傾向は、美術と縁のなそうな出版社が数多くそれに参加していることが、本の多い原因にもなっていると思へる。昔は美術書を出版する人は限られた人達がやっていた。地味な道を歩み続けて一途にそれに従った。その人達は他の分野にまで手を染めることをしなかった。自分はそれら専門家たちとの交流を永い年月持った。出てくる本を売った、これも専門的にそれに随った。美術書を扱った店は出版者からちか取引していたのである。一九四三年以前の美術図書はその殆どが三百部か五百部どまりで(時に百部のものも多々あったが)事実上出版されたものは皆限定本と云える性質をもっている。小部数出版に問屋を経ることはなかった。出版者として

記録にとめる年代

日本文化の発達に大きなかわりを持つ出版史上で特殊な一部門である「美術書群」について自分は過去半世紀に涉つて商売の傍らその時々手控へを続けてきた。カードにも取った本も多い。それらを整理しつ、美術書出版業者たちの行動をたどることにする。記録にとめておく年間を一九八九―一九四二(明治廿二年―昭和十八年)に至るほぼ五十年間とした。この期間最も高級な意義ある豪華美術本が出たからである。仕事のさなかつ時を利用して記録を続けてきた。万全を欠くこと屢々で不備ではあるが、書かないよりましかなと思えるのでペンをとつ

た。一応まとめておいて徐々にやり完全なものにしたい念願でいる。年代を決めた理由

さて、美術書誌を物するに当りその年代の上限をどこに置くかを決める必要がある。私は今世界的に著名となった「国華」の創刊年を以て美術書誌の出発点と定める。

国華は明治廿二年十月廿八日創刊され第一号を出した。以来九十五年を経る一九八四年の現在継続

にて研究者も鑑賞家も必見のものとしてきた。特に色摺木版二葉を添えたことは、この仕事をより長丁場にした理由の一つに数へられてよいと思う。

木版色摺は長い歴史を持つ日本の伝統技術である。その優秀性は江戸時代の版画を見れば十分にうなづける。だが「国華」の場合挿入図作品に古画が多い、そこで緻密な刻版技術が要求される。機械



「国華」創刊号表紙

し、月々発行されており千七百八十号(冊)を重ねた。世界に類のない驚異的長命出版物となった。その特色を書いておきたい。

まず内容では日本東洋の古美術品の紹介に重点を置いていること、色摺木版二葉、コロタイプ図版五葉を加えて、これら作品群の解説面では専門的な研究論文を通して、日本東洋の古美術が理解される。論文寄稿者は日本の美術史上で一流専門家が之に当り論文と図版と

による複製技術は年と共に進歩を続けているが、古画の持つ緻密な図の複製となると手摺でないといけないうのだ。色を重ねかさねして量感を出すのが最も重要だからである。「国華」は今日長命を保った大きな原因は挿入された版画にあったことは否めない。創刊以来九千点に及ぶ、日本東洋の古美術品を紹介した古美術博物館といえる。長命にふさわしく功績は無限に大きい。

美術書とは、図版を多くし、文章がそれに附随している所謂図録本位のものと考えられてきた。「国華」は雑誌の形式をとってはいるが、既述のように、図録として見ても、図録中の頂点を成すものとして何人も認めるところである。以下「国華」を発行してきた国華社の仕事を見ていくことにする。

一、国華社

「国華」明治廿二年十月廿八日創刊、五百部を限って出版した。手摺木版色摺を挿入する関係で多くは作らなかった。手摺木版の場合合是くらの部数が良いとされている。摺り上りを厳重に鑑査し、ヤレが混つていないかに神経をつかった。ヤレとは摺り面のキズ、摺のズレ・色調の原本比などの不良品を言い、それらをすべて省いた。月刊であるが二度例外があった。大正十二年八月から同十三年一月迄六ヶ月休刊、昭和十九年四月から同廿一年三月まで十五ヶ月休刊、右の二例の他は正確に歩みが続けた。前者は関東大地震の年であり、後者は二次戦時中だったことは言うまでもない。

表紙文様は一年毎文様を変えている。号数を見るに都合よく出来ている。千廿九号(一九七九―十二月)までの索引を発行した。

余事―自分は昭和五年桂万巻楼文庫旧蔵本人札の時、当時四百七十六号(冊)だったのを二千六百

六十六円で落札した経験を持って
いる。

印譜辨妄 明治卅二年

福岡孝悌著弁玉集、万宝全書の杜撰を弁じ本朝画史等の足らぬを補う。

本朝三十家名画集 同 卅九年

国華誌上に発表されたものをまとめたもの、藤原時代から江戸時代までの作品、色摺十九葉入れている。コロタイプ刷三十一図、解説付。

光琳乾山名作集 同 卅九年

光琳六図、乾山四図、解説付。

葛飾北斎日新除魔帖 同 卅九年

和漢名画選 同 四十一年

色摺木版廿八図、コロタイプ図版七十二図、和英両文の説明付、大正六年増訂版を出した。

光悦派画集 同 四十二年

上野有竹斎蔵品野山靈宝集 同 四十二年

高野山金剛峯寺にある宝物図録

南園集三冊 同 四十三年

江戸時代の南画家大雅、蕪村から田能村竹田に至る三十家の作品集作家の伝記と解説を附す。大正三年、五年、十二年と六版を重ねた。

王右軍書記一卷 同 四十三年

喪乱帖と九月十七日帖を収めている、内藤湖南先生の跋がある。

大安寺縁起并流記資財帳一卷 同 四十四年

圓山四条画鑑 同 四十四年

応挙を祖とする圓山派の画家の作品と四条派呉春系の十八家百廿図を収む、大正五年まで三版を重ねた。

泉屋清賞六帙明治四十四年—大正五年住友家にある中国古銅器古鏡大判図版百八十枚の図録、最初の出版物。秦蔵六の解説つき。

世外庵鑑賞 同 四十五年

井上馨、号世外の集めた中国日本の絵画図録、優れた中国画が多い、五十三図のうち木版九図を収む、

華山蠡魚帖 同 四十五年

渡辺華山画

米元章書崇國公墓誌 大正元年

華山目黒詣図巻 同 二年

長春閣鑑賞六冊 同 三年

神戸の川崎家が所蔵する膨大な日本中国の古画、木版色摺三十枚を添へている豪華巨冊図録。

玄庵鑑賞 同 三年

村山龍平家に伝わる日本中国の名品絵画集

源氏物語絵巻三巻 同 四年

国華創刊廿五周年記念出版物、名古屋徳川家に伝存藤原時代末期作有名な隆能源氏である。原寸複製本文解説を添へる、源氏物語絵巻複製の極初。大正九年再印した。

国華創刊廿五年記念展覧図録

国華に収録された名画を展示して一冊の図録とす。 大正五年

西域考古図譜二冊 大正四年

大谷探検隊が中国西域からもたらした彫刻絵画典籍類等の遺物図録、二九枚コロタイプと木版摺十七図入。本図冊に研究解説がつくことになっていたが発行するに至らなかった。

泉屋清賞訂正版 大正八年—同

十五年、この図録は最初明治四十四年に出版した、その訂正増補版別冊に「十鐘」一冊と浜田青陵博士の解説和英両文四冊を加へた。

図版総て三百八十枚。因に「十鐘」一冊は陳氏旧蔵十鐘と云う、中国清末陳什補の旧蔵だったのでその名を冠した。木版色摺三十八枚入

図録八冊解説四冊挿入色摺木版は特別により、古代銅器を眼のあたりに見る木版技術の芸術品、配り

ものとした非売品、現品は京都住友博古館に収められる。

広重肉筆五十三次図 大正九年

「静嘉堂鑑賞」の表紙と

百五十度色摺木版の挿入図版

静嘉堂鑑賞三冊 同 十年

岩崎家蔵品、日本画藤原時代から江戸期に至る。仏画、絵巻、琳派

の作品を含む、中国画、宋元明清

絵画総て百四十八図木版色摺廿六

図、滝精一、沢村専太郎解説付。

日本美術名作集六帙 同十一年

国華に紹介されたものから取材。

雙軒庵鑑賞三冊 同十二年

雙軒庵松本氏が集めた近世絵画集

特に江戸時代竹田山陽諸伝で有名

蕪村筆奥の細道画巻二巻

全巻色摺俳風をおびる有名図巻、

昭和七年版

東洋美術図譜二帙

建築工芸絵画等三百十図、滝精一

博士の大学講演美術資料に基き編纂。

和亭集三冊 滝和亭作品集

伝郭熙溪山秋霽図巻一卷

日本名画十種

国華の木版十図を選んで作った。

以上国華社出版物をあげた。出版

版された、殆んどをあげたつもり

であるが漏れているものもあると

思う。この他には非売品とした自

社で売らない、注文出版物もあつ

たであろう。国華社自体は、出版

の中心は国華にあつた。容易なら

ざる編集を強いられていた事情に

あつたので、出版物としては出版

年数の長いに拘ず、他の出版社に

比して多くなかつた。右に列挙し

た出版物を追ってゆくと、源氏物

語絵巻三巻は絵巻物複製本の大和

絵同好会の仕事よりも複製の仕事

では五年先行している。原寸に出

来ていて当時は珍らしいものだつ

た。

一九三〇年、米國ボストン美術

館から、日本古美術研究に特派さ

れて、京都で日本美術史の研究生

活を続けていた若い学徒ロバート

ペイン氏が強い希望で、当時入札

に出た、源氏物語絵巻三巻を百廿

六円で入手して大層喜ばれたこと

があつた。当時の時価は七十円を

出なかつた頃とて破天荒な高価だ

つた。一個人のコレクション入札

が人気を呼んで時価を超えた高価

になつた。国華社はこゝに記した

如く少ない出版物だったが、西域

考古図譜、泉屋清賞、静嘉堂鑑賞

など、重要な図書出版があつたこ

とは注目される。造るものはないと

／＼のこる。心のこもつた良い仕

事をしてほしいと願うのは筆者ば

かりではない。次に書く予定をし

ている、審美書院の仕事振りをつ

ぶさに見ていきたい。是が残る」

出版物であることを。(つづく)

附記

筆者中山善次 一九〇六年生、一

九二一年文華堂入店、文華堂は山

本釘太郎(一八七八—一九三九)

によつて、一九一一年創業した。

美術書を主として商つた。美術書

を専門にした関係から、国華社、

審美書院で出した大型図録本を多

く常時在庫した。江戸時代の古版

本などにも図入本がより多く在庫

した。一九四五年九月文華堂三代

を継ぐ。初代出発時の専門商品を

主として扱い現在に至る。

前号で「聞きがき」昭和古本史」連載の予告をしたところ、二十五号で「北山先生のこと」を執筆いただきました奥村三舟さんより早速思い出の記をいただきました。

回想の古書肆

奥村三舟

梶井基次郎が名作「檸檬」を書いた頃、丸善は河原町三条西入るにあった。小さい薄暗い室の一階だけだったが、何か落ちつける気がした。私はこの丸善へしばしば行って本を見た。減多に買いはいないが、たまに買うことがある。ありがたいのはそのつけがいくらかたまって決して請求がこないことである。これは私が丸善に格別に信用があったからではない。その頃の丸善は京都の学者という請求はしなかった。だから京大あたりの有名な先生は、丸善に莫大な借金をかかえていたが、その借金が多ければ多いほど教授の格が上ったものである。

さて、この頃僕は丸善に毎月二十円（今の十万円位）払う外、古本屋あきりもした。それが出来たのは、古本は今よりはるかに安かったからである。ここでも私は、本屋をひやかすばかりで、減多に買わない。従って古本屋さんにはあまり評判がよくなかった。これ

につけて思い出すは河原町今出川の善書堂である。

この店は当時（今でも）英文学の良書、稀覯書を店に置いているが、でっぶり太って頭のはげた主人はいつも愛想が良かった。この主人はもと丸善の番頭をしていたぐらいだから、洋書の（神様は大げさかもしれないが）Walking Encyclopediaであった。洋書のことなら、英語でござれ、ドイツ語フランス語でござれ、何でも知っている。私が今、英文学者の末席を汚しているのも善書堂のおかげである。

由来学者と本屋は持ちつ持たれつの関係にある。学者は本を買わないでも書棚に並んでいる本の背を見るだけで勉強になる。一方本屋の方は店に来る学者と心安くなり、その話をきくだけで商売上のヒントを得ることがある。しかし古本屋と学者の関係はいつもこのようにスムーズに行くとは限らない。売買の金額について意見が合

わず、やおらケンカになりかかるぐらいのことはざらであって、客の中には万引をする者もある。このあいだ田中角栄を裁く地位にある判事が書店で万引をしてつかまったが、魔がさしたとしかいいようのない行為をする人が絶えない。

私が京都に来たのは五十年前の日支紛争の起った年であるが、他の社会と同じように、この五十年間に京都の古本屋も変った。昭和中期には盛大に営業していて、今はなくなつたのもあれば、終戦後めきめきと大きくなつたものもある。その二、三の例をあげてみよう。

まず頭に浮ぶのは寺町京極上るにあつた京屋という店である。洋書では現代の文学専門で、私はここでギョーム・アポリネールの「アルコール」という詩集とか、ガートルード・スタインの本とかを買つたことがある。これらの本はシユールレアリスムの絵画のように当時の最尖端を行くものであつた。そこへ行くと三条河原町にある

大学堂はそれより少し古い十九世紀の古典（たとえばウォルター・ペーターの全集）を置いていた。文学でなくて言語学となると、三高（今の京大教養部）の東、吉田神社の参道にある中西屋が（善書堂とは別として）一番であつた。ここで私はフランクの「沙翁文法」やソシュール、メイエなどの言語学の古典的な本を手に入れることが出来た。国文学関係では何といつ

ても赤尾照文堂、京阪書房であるが、戦後赤尾は洋書、それもロシア語まで置いていたのは、主人が大阪外大ロシア語科出身のせいもあるであらう。

戦争中から終戦直後の古本屋のことをいえば、どうしても河原町丸太町通のことを語らねばならない。まず、丸太町南側の交差点を少し東に入つたところに、国井書店というのがあつた。可成多くの本を置いていたが、そのほとんどが医学書であつた。他に山の本も少しあり、私はここでウィンパールの「アルプス登攀記」（山の本の古典）の初版を見つけた。飛びつきたい程欲しかつたが、値段は当時の私の手に合わなかつた。この店は今は無く、あとが薬局になつている。

当時の丸太町は河原町通りから、東山通りまで、主に北側にずらりと古本屋が並んでいて、やや丁寧に見て歩くと一時間近くかかった。しかしそれは楽しい散歩で、思わぬ掘出物（たとえば今、私の手元にある田山花袋の「田舎教師」の初版とか）をすることが出来た。とくに私のよく行つたのは河原町と東山通の中間にある小さい創造社という店で、私はその主人と話をするのが好きであつた。大正末期、昭和初年よこれた手拭を腰にはきみ高下駄をはいた三高生や京大のそうそうたる教授（一例、矢野峰人先生）がこの店の得意客であつた。この主人もいまは故人である。それどころか丸太町の古本屋そのものが今では昔日のおもかげがない。

古本屋のおやじといえ、大抵無愛想な中老年の男であるが、そのなかで女で古本屋を開いているのがあつた。女といつても四十は越していたと思う。寺町丸太町を少し下つたところで、下御霊神社の筋向いになる。この店には珍しい英独仏露の洋書があつて、私はここで帝政ロシア時代に発行された大版のトルストイ全集の端本（「アンナ・カレーニナ」と「戦争と平和」）またドイツ版のチェホフ全集などを手に入れた。その店は終戦後間もなくなくなつたので廃業したと思つていたところ、百万遍上るに新しく出来た小さい店で女主人と再会した。あの人は今どうしているだろう。

ところで、私の一番よく行つた当時の竹山善書堂に話を移そう。店の造りは大体今と同じで、入って右側に和書、左側に洋書が並んでいた。ただ今と違うのはカウターのそばにガラス戸のはまつた本棚があり、その中には私のような英語書生がよだれを垂しそうな稀覯本、絶版本の良書がずらりと並んでいた。戦争中か終戦後にかけて、竹山はカタログを出しており、地方からの注文も多かった。英文学書の中で一番多いのはアーサー・シモンズ、J・A・シモン

ズ(サイモンズ)か、ジョン・ゴールズワージー、W・H・ハドソン等、当時よく読まれた本で、一口にいえば前世紀末から今世紀初頭に活躍した作家たちである。この点、今京都女子大の所蔵する安藤勝一郎先生の蔵書(安藤文庫)と相通じるものがある。主人の竹山翁が今生きていれどと思うのだが、あとは竹山広之氏が継いでおられ、店の広さ、外見も見違える程立派になり、店運ますます隆盛なのは嬉しい。

私の勤めている学校が今の、地下鉄北大路駅の近くにあったので、その近所の丸万書店にはよく立ち寄った。ここで私は不思議な本を見つけた。赤い表紙のついた紙の悪い本である。いくらくとくと五十円だという。(二十年程前の話である)奥付に五十部限定と書いてある。題名は「腕くらべ」。ただし荷風の名はどこにもない。どうやらこの本は荷風の私家版「腕くらべ」を焼き直したもので、閑房の描写は荷風よりもつと露骨であり、むしろ春本に近い。この本を誰が書いたのかは永遠の謎である。

丸万から東へ橋を渡り、洛北高校前へ来ると三軒程古本屋があった。そのうち一軒はなくなったが、他の西北書店と吉田文庫は健在である。西北書店の主人は、大阪の大学を学生運動のために中退したインテリでロシヤ語を読んだ。つぎは或る日の私と西北書店主人の

会話である。

私 「会津八一の『南京新唱』の初版はありませんか。」

西北 主人 「いまだそんなものがあるもんですか。ただ第六版なら、奥にあります。」

私 「ちよつとそれを見せてもらえませんか。(本を手にして見る)これ貰いましう。いくらですか。」

西北 主人 「六百円にしておきましょう。」

こういうわけで私は前から欲しかった「南京新唱」の初版を手に入れたのである。あの本の奥付は、周知の通り、はじめから第六版となっているのである。初版は当時でも一万円はした。西北の主人は社会科学の本が専門だから、こういう掘出物が出来たのかもしれない。幸運であつた。

西北からさらに東、洛北高校前に近いところに、山下書店というのがあった。こゝも蔵書が豊富で、私は主人と心安かつたが、戦争末期に徴用で北海道の炭鉱に連れていかれ、それがもとで死んでからは後をつぐ人がなく、しばらく新本屋をしていたが、これも近くに出来た茶書房に圧倒され間もなく廃業した。

梶井基次郎は二条のフルーツパラーを出て、寺町を下つて丸善に行った。これが当時の三高生のおきまりのコースであつた。私もよくその道を歩いた。先にいった

京屋もこの寺町通にある。しかし寺町には他に漢籍専門の榮文堂、森鷗外がよく立ち寄つた店)、江戸時代以前の和本の専門の竹苞書楼、仏教書専門の其中堂などがあつた。戦前から終戦直後の古本屋を語る時、落せないのは夜店、すなわち露店である。当時は日をきめて、方々に夜店が出た。夜店で売つていたものは植木、金魚、綿菓子等、いろいろであるが、かならず一軒か二軒古本屋があつた。主に月おくれの古雑誌であつた。雑誌の外に小説類、辞書類、たまには洋書を置いており、このなかには思わぬ掘出物があることもあつた。今当時の露店をしのぼうと思えば北野天神の市へ行けば、同じものが見られる。

古本屋と教師は持ちつ持たれつだと思つたが、概して昔の古本屋の主人は頑固で、無愛想で取つきにくかつたが、しかし少し親しくなると、随分面倒をいわず欲しい本をさがしてくれた。ヨローロッパの古本屋も似たりよつたりである。ロンドン一の書店フォイルには奥に古書部があるが、本が図書館のように著者又は書名のアルファベット順に並べてあるのは便利であつた。ロンドンの本屋でも、今、日本で普通であるように見切り本、ゾッキ本を一シリングぐらゐで店の外に積んであるのがあつた。私はそこで二、三冊本を買つたが、次の日行つたら

らに一シリングの半額になつてゐた。

私はイギリス留学の際は西英のプリストルというところのプリストル大学に籍を置いていた。プリストルは港町で、エイボン川の上にかつたたつり橋で有名である。町全体は活気のある港町であるがその中央にそびえるククフンの学園都市は落ち付いた雰囲気を保っている。ここに一軒の古本屋があつて、本を土間にじかに積み上げてゐる。客はその山を崩し、積み上げて、片寄せては好きな本を掘り出すのである。本は日本の三十年代に高校で使われた作家のものも多くラスキン、カーライル新しいところではショー、ゴルワージー、スチブソンなどであつた。

本をかき廻して見当をつけ明日買いに来ようと思つてもダメである。本の山は又誰かによつてひっくり返され何処に入つたか分からないからである。私はここでラスキンの「近代画家」の十九世紀の初版の端本が四、五冊あるのを見て求めようと思つたが飛行機旅行では重さの制限があるのでやめた。

京都市の姉妹都市イタリアのフイレントは五月で、マロニエとつじの盛りであつた。こゝの古本屋は繁華街の地下にあつてよい本を置いていた。私はイタリアで少し新本を買ひすぎ、又生活もややぜいたくになつていたので、しまいはこゝの古本屋の世話になつた。

はじめは外国人の本を買つてくれるかどうかと危ぶんだが、私の弱状をきき心よく買つてくれた。初めてなのに名前住所もきかない。パスポートのプロフェッソレ(教授)が多少きいたのかもしれない。とにかく買つてくれた。日本と同じく原価の倍ぐらゐだつたと思う。

一方主人は皮表紙のボッカチオの「ダンテ伝」を見せて「モールト・インボルタンテ(大変重要な、必読のこと)」といったが、何しろ本を売る立場の私には買えなかつた。他にイギリスのダンテ・ゲイブリエル・ロセッティの父の詩集、マラルメ詩集の限定版があつたことを記憶している。

古本屋と教師はもちつもたれつであること、主人と話していて専門の分野に啓蒙を受けること、最後に思いがけない小使が入ることなどが古本屋の功德である。しかし今の古本屋ではこれはほとんど不可能に近い。

古本屋で毎日のようにとぐろをまいて、煙ぼうぶら古本の話、時局の話、女の話などにうつつて忘れるのんびりした大学教授もいなくなつた。これを慨嘆するのは、明治四十一年生れの私ぐらゐだろう。私はそれでもマンガ文化、テレビがいがい、ポルノ好き立読み党の間隙を縫つて、今でも老獺の両手に重い本包みをかかえて、下鴨神社の境内を歩いて帰る、女房

に此られる生活を繰り返している。生金生活者（完全失業者？）の私。が少しは新古の本を買い取るのも、

ひとえに長い間のつきあいである。竹山善書堂のおかげである。（英文学者）

聞きがき

「昭和古本販売史」(一)

昭和初期の和本屋界

昨秋京都古書組合は六十周年を迎えた。ちょうど昭和と共に歩いてきたことになる。人間でいえば還暦でもある。昭和をふり返ってみるのにも良い機会である。

そこで京都の古書業界の長老を訪ね、思い出話の中から昭和の古本史、就中その販売史をたどってゆきたいと思う。個人の体験であるので歴史的に普遍的でないこともあろうが、個人の歴史を緯糸として並べてゆくうちに共通の横の継りが浮き彫りにされるのではないかと考える。

まずは昭和初期の和本屋の業態を京都古典会の最長老である羽田太三郎氏（竹僊堂主人）に伺った。

「羽田さんが古書業界にお入りになったのは何時ごろですか」

そうですね、大正二十七年の時、佐々木竹苞楼のお店に奉公に伺いました。当時は、まず何処かの老舗に修行に入り、商を学ぶも

のでした。最初は、掃除雑用で本には一切触れさせてもらえませんでした。その内に丁稚の我々も、本直しを教わるわけですね。

まず和本屋の第一歩は、本の修理です。随分修理をしました。毎日糸の切れた本の糸掛、やぶれ本の裏打ち、表紙変えなど、和本屋の基本は、本の修理からです。今でも日に何ばか修理しています。

出来るだけ原形をとどめる様注意し、同じ様な糸、同時代の料紙、色目合せ、表紙変えでも、その書物に合うものを選び使います。

古本の修理には、特に気配りして、今では零本でも一人立てる様な本も、当時は修理用紙として使っていました。本が豊富な時代でした。小さな穴を一つ一つ念入りに修理して行くのです。修理が終わると、木槌で一枚／＼修理部分を打って、出来るだけ直しが目立ないようにするのです。

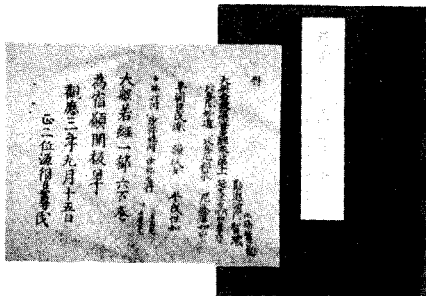
（仲々大変な仕事ですね。それ

だけ本を大切にしたのでね）

本の整理をまかされる様に成ると、店で扱う稀覯本などを閑な折りに、控えたり写したりしました。佐々木の主人は、わりに自由に私の好きな事をさせてくれました。そうした中で「尊氏顯経大般若經六百卷」の奥跋を全巻横写したりしました。

（現在尊氏顯経一卷でも貴重なものですが一度で大般若經六百巻を扱う事が出来たのです）

そうです。当時では現代重美クラスの物でも結構出ましたね。和本の質量共に現代の比ではありませんから。



羽田氏が奉公時代書写した「尊氏顯経大般若六百巻」奥跋、虫喰まで写されている。

（さて羽田さんが独立されお店を開かれたのはいつ頃で、又当時和本を扱っておられる店はどう

らいましたか）

佐々木様に十年、御礼奉公一年の修行の後分家して、竹僊堂の店を開きました。

そうですね私の記憶では、三条を中心、佐々木竹苞楼、細川さん（開益堂）、山田茂助さん（聖華房）、北の方では、山本文華堂、唐本の葉文堂さん、丸太町には一般書業の店が何軒か有りましたね。南の方は、五条の山城屋さん（文政堂）、菱友さん（沢田友五郎）、本願寺の近くには、西十さん（西村為法館）など仏書屋さんが何軒もありました。其中堂さんが開店されたのも、三密堂さん（先代）が独立されたのもこの頃です。

（羽田さんの開業された昭和初期の和本の売行や動き、又、今日との違う点は）

大きっぱに云って商品の価値は今も当時も変わりませんね。昔高く今は安いものや、今は高いが昔安いものは少ないです。当時から高い系統の物は現代でも高いです。もちろん物価にスライドしていますが、ただ研究する大家の出現や死去により、その系統が売れたり、売れが遠くなったたりする事はありませんが、当時は現代より購買力がありましたね。今は和本を捜している人はあっても、さて買う人は少なくなりました。当時は「吾が買う」と云った意気込のお客様が随分おられましたね。

（どういった方がお客さんでし

たか）

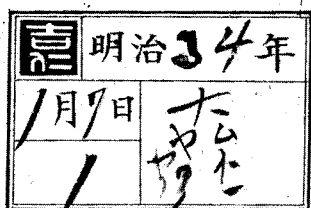
もちろん学者の先生方のほか、実業家の中に和本の蒐集家が多いでした。当時から和本は、一般書に比べて高値なものでした。学生さんなどは、仲々入手できなかったものです。和本屋の上得意は、愛書家の実業家をつかむことでしたね。

当時はそうしたお客様も多く、商品も豊でした。先に云った様に当時の一流品は現代重美クラスのものでした。二流三流品が現代一流品になっています。時代が移り変わるにつれ品薄、質の低下は仕方ないことでしょうね。景気の変動に多少高低はありましたが、大正昭和初期の和本の値段は緩やかに上る程度でした。それが戦争により一気に変動しました。

（当時の商品の仕入先と市場はどうだったのですか）

和本の場合市場は現代のように古書組合直営でなく、個々の店が市会を開催していました。細川さんや山田茂助さんの自宅でも日を決め品物を持ち寄り市を開いていました。

私も独立してまもなく寺町の或るお寺を借り市場を開きましたが、或時江州から出た品物が余り多くて市の計算に夜中の十二時頃までかかり、とうとうお寺から断わられたエピソードもあります。その後、昭和二年頃から自宅の二階で市場を開き、京都古典会を創立し



吉野屋に兵衛書店の値札
値段は符丁で表示されている

ました。

ほかに道具屋などの中切屋（中間業者）からも和本が出ました。弘法さんや天神さんの出店でも面白い物がわりにできました。蓮月尼の短冊なんか朝市で見つけた事もあります。

同業者の仕人には、文庫（ひろぐら）と云う通帖があつて、月末に清算する様になっていましたね。（まだ当時一部では木版刷りの和本が各店で発行されていた様です）

昭和初期では木版摺の和本（後刷新刷）が五十部とか二十部づつ刷って売られていました。結構売れましたし版摺り職人もいましたよ。（木版本が開版された最終はいつ頃でしょうか）

さて、明治ごろまでか、大正にはもう無かつたかな？明治中期はまだ開版されていたね。

（当時和本屋は売価を表示しな

かつたのですか）

大体は符丁で、売値は付けませんね。直接表紙裏に書き入れる場合や、シールを貼る場合がありますが、仕入月日、巻数、仕入値の符丁、売値の符丁を表示してあるのです。

符丁はその店々により異なります。特に売値は同じ符丁を用いても仕入符丁はどこか違っていました。本屋の信用度も高かつたし、どここの本屋は何が専門であるとか云つた値段の確かさもありました。

（和本の値崩れがおこつた戦時中はどうしておられましたか）

戦争が激しくなると本を買う人も無くなり、空襲や疎開で蔵が開き書物がほとんど出廻りませんでした。市場でも買手がなく当然価格は暴落してしまいました。本で売るよりもつづし（反古紙）で売るほうが高くなり、又紙の統制の為白紙を仕入れるのに「つぶし」何貫目かを供出さなくてはならない時もありました。その時は貴重な和本も反古紙になった様です。私は戦災でどうせ死ぬなら金を持つより本を持って死のうと思つていましたので、この機会に本を冤めました。お陰で命拾ひをした和本もたくさんありますよ。

聞き手 藤井敦（文政堂）

今回は和本屋界の昭和初期の一応の流れを追うにとどめました。個々の問題又戦中戦後の和本の動

投稿

春洋と安繹の交友

浅 香 武 和

向、一般書との兼合いなどを多くの方から聞きがきして行きたく思

います。昭和初期の和本界に関するご意見ご感想などお寄せ下さい。

神田孝夫先生（神田喜一郎博士次男）からいただいた手紙は、昭和五十八年十一月三日付であつた。

その内容は、江戸期の国学者重野安繹（文政十年・一八二七）明治四三年・一九一〇）が阿波藩の儒学者井上春洋（文化九年・一八一二）明治二五年・一八九二）に贈つたと思われた漢詩一編についての問いあわせであつた。

かつて私は井上春洋のことを調べ、「日墨交流の発端」および「スペイン語事始と初太郎」を執筆するにあたり、春洋の子孫堀正人先生からお教を願つたことがあつた。その内容は次のようである。

江戸期の天保年間に、阿波の漁民初太郎が漂流してメキシコに渡り、その地で一年余り過ごし無事帰国した史実をもとに当時の阿波藩の儒員たちが初太郎より聞いた話から『亜墨新話』（天保十五年）を著した。また、春洋は七言絶句で『亜墨竹枝』（弘化三年）と題

して二八首の詩で初太郎漂流記のことを詠じている。

ところで、私が神田先生と出合ったのは、東大比較文学会の発行する『比較文学研究』第十六号（一九六九年十月）に、神田孝夫『亜墨竹枝』雑誌「天保の文人たちとアメリカとの一つの出会い」をたまたま私は発見したからである。

神田先生は、東大図書館の書庫でふと見いだした和書漢詩集『亜墨竹枝』に大へん関心を寄せ、作者井上春洋を心から賞賛していた。さつそく私は神田先生に手紙を差しあげたら、おり返し丁寧な返事を下さった。その後、関西で比較文学会の大会が催されることになり来阪された神田先生と親しくことばを交すことになった。また、『亜墨竹枝』を介して堀正人、神田孝夫両先生の出会いもあった。

さて、先に述べた重野安繹が井上春洋に贈つた漢詩は次のようである。

阿波徳島客舎次井上春繹韻

徳島城一名渭城

積雪樓臺憶玉京

十年文酒舊同盟

不將遊跡付鴻爪

渭樹江雲他日情

この詩は、杜甫の詩集「春日憶李白」から引いたものであり、渭樹江雲とは杜甫が李白のことを思う心から一般に友人のことを案ずる時に用いる。

また、春洋は京都に出かけた折、次のような詩を詠じている。

入西京

東道繁華沸熱塵

馬車遊蕩過三旬

鴨河一帶清涼境

好踏秋波見洛神

春洋のことについて、凌霄文庫長の後藤捷二氏が大阪史談会で『阿波人の詩書』（昭和三年・五十部限定）という和書を編んでいる。春洋は淡路洲本の人で蜂須賀藩医であつた。文政十二年十八の時、京都に出て蘭医小石玄端（一七八三〜一八四九）に学んだ。

玄端は江戸で杉田玄白、大槻玄沢、宇田川玄隨の諸家に蘭学を学び文雅を愛し頼山陽と親交があつた。したがって春洋も蘭学を学ぶかたわら山陽の感化をうけて詩文にも長けていた。『春漁和歌集』が上梓されるはずであつたが散佚したらしい。惜しいことである。

（関西外大言語文化研究室）

古書研だより

I L A B (世界古書籍商連盟)

ロンドン大会見聞記

キクオ書店 前田 司

二年に一度のI L A B総会が今回はA B A (英国古書籍商協会)の世話により昨秋ロンドンで開催された。またこの会議を記念して第十回国際古書展も引きつづいて開かれた。古書流通の要でもあるロンドンという地の利のため参加者は外国より百五十余名という大盛況であった。日本からはこの連盟の傘下にあるA B A J (日本古書籍商協会)の会員が、中尾堅一郎会長以下十六名が参加。アメリカに次ぐ勢力であった。

総会には十七ヶ国が出席して開かれた。議事の中ではとくに「古書店」のあり方についての論議が活発に交された。目録に記載する本の信用性の問題に端を発して、書店の倫理感、責任感を基本とする社会的な責任についてまで論議が沸いた。結局連盟傘下の各国における会員選挙のあり方に厳しい目が向けられた。

さてこの大会は会議はともあれそれに伴うエクスカージョンもまた意義がある。九月十五日より四日間、連日見学会やパーティーが開催された。

初日は「ボズウェルとジョンソン展」の見学。夜は先年ロンドン

サミットでも使われた政府の迎賓館ランカスター・ハウスで商工大臣夫妻主催の歓迎宴が行われた。英国に於ける古書籍商の社会的地位がうかがわれた。

翌日はイトンカレッジへ。グーテンベルク四十二行聖書を持つ大学図書館や、数百年使用した机の並ぶ教室を見学。コンサートのあとチームズ河畔で晩餐会。

三日日はI L A B会長のロンドン氏邸で昼食会。オクスフォード近郊の中世に建てられた会長邸の庭園に席が設けられてあった。この時の参加者が三百人との事。これだけの収容力のある屋敷の広さと、何よりもその資力の底力に驚嘆する。午後はオクスフォード大学を見学。コドリントン図書館で講演を開いた後、ボードレアン図書館でカクテルパーティー。シェリー片手に見た装飾古写本や、ケルムスコット版チョーサー著作集のヴェラム刷が今も目に浮ぶ。

最終日は総会のあと夜は超一流のサポイホテルでA B A主催の正式晩餐会。日本人も着慣れぬタキシード着用で出席。今年のA B A会長はクラレ・パーキンス女史で、ダイアナ女王に似た若い美人

会長である。ちなみにフランス、スエーデン、オランダの会長も女性であり、総会でも殿方相手に堂々と意見を述べていた。

宴会につづく舞踏会はデイスコ調。お開きは深夜であった。

会議がおわって翌日から、国際古書展がグリーパークに向って建つパークレーンホテルで開幕。

一階から地下二階までの大会場に世界中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の

世界の中より百五十店が出店した。日本は中尾松泉堂、一誠堂、大屋書店、雄松堂の四店が参加した。一軒は一坪半ほどのブースではあるが、じっくり見ているのは四日間の



第10回国際古書展

り引きが交されたとか。

ところで総会の席上アメリカの会長が、次々回の総会を日本でと提案したが、これが遠い国より多数参加した日本に対するお世辞で

第二回春の古本まつり

五月三日〜六日に開催(併せて目録も発行)

昨年好評であった春の古本まつりを、今年も同じ岡崎公園内京都勸業館で五月三日〜六日まで四日間開催することに決定。屋内だけに青空古本市とはちがった秘蔵品も出品されるものと思われる。

また同時に研究会々員の合同目録である「特選総合古書在庫目録」第三号を発行。B5判、写真入の豪華版で、昨年より一層内容を充実させる予定。

販価は一部五百円(送料込)であるが本誌定期購読者には、申込いただいた方に限り無料でお送りする。申込は研究会事務局まで。

好天にめぐまれた

第八回青空古本まつり

京の秋の名物行事「青空古本まつり」が本年も百万辺知恩寺で盛大に催された。日頃の精進が良かったのか、五日間好天にめぐまれ、人も五万人を数えた。

とくに今年は「子供達を本好きに」という当研究会の活動方針に基き、児童書コーナーを特設。あ

はなく、真に我が国の古書業界の国際的な実力に對して言ってくれたのか真意はわからぬが、ともあれ世界の古書店の底力を垣間見た旅であった。

まりの人氣に品不足となり担当會員をあわてさせるほどであった。供養本のチャリティーの純益金は昨年東京都中央図書館に寄贈させていただいた。業者以外の供養本の御寄贈者は次の通り(順不同)

石井正吉様(東京都)、竹中様(京都市左京区)、小川章様(同)、土景伸一様(同)、小島十一様(同伏見区)牛島様(京都市内)、他、匿名御希望の方八名。

御来場の皆様、御寄贈いただいた皆様に誌上をもちまして厚く御礼を申し上げます。

編集後記

昭和も還暦六十年を迎えたためか今号は思い出話に華が咲きました。年末のあわただしい中ご執筆ありがとうございます。

編集長をバトンタッチして三号目となりますが、またも発行が遅れてしまいました。次号こそ四月十五日に発行できるようにがんばります。

前田 司

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号

阪急古書のまち

(株)臨川書店 大阪店

電話 (〇六) 三七四一・一三〇〇
振替 京都 八〇〇〇番

営業時間 午前十一時—午後八時 定休日 毎週水曜日

《俳諧特集》

1	俳諧文学(日本文学大系)	昭和13	一、〇〇〇
2	俳諧精神の探究	昭和22	二、〇〇〇
3	俳諧評釈	昭和22	一、〇〇〇
4	俳文芸の論	昭和28	一、〇〇〇
5	連俳史	昭和5	四、〇〇〇
6	校本 犬筑波集	昭和13	二、〇〇〇
7	清風とその遺書	昭和37	三、〇〇〇
8	俳諧 鶴衣	昭和3	八、〇〇〇
9	芭蕉講座(研究篇)	昭和31	四、五〇〇
10	芭蕉講座(伝記篇)	昭和31	四、五〇〇
11	芭蕉七部集	昭和31	三、〇〇〇
12	芭蕉俳句鑑賞	昭和16	三、〇〇〇
13	芭蕉 冬の日	昭和24	二、五〇〇
14	新編 芭蕉一代集	昭和6	四、〇〇〇
15	芭蕉一葉集	昭和6	五、〇〇〇
16	評選芭蕉句集	昭和14	二、〇〇〇
17	芭蕉講話(増補版)	昭和21	一、二〇〇
18	芭蕉(日本古典読本)	昭和14	一、二〇〇
19	芭蕉(朝日古典講座)	昭和28	一、五〇〇
20	芭蕉俳句研究	昭和11	六、〇〇〇
21	註解芭蕉書簡集	昭和27	二、〇〇〇
22	芭蕉 芭蕉庵春秋	昭和2	二、五〇〇
23	芭蕉 古典とその時代Ⅶ	昭和37	二、〇〇〇
24	芭蕉(国語国文学研究史大成)井本農一他	昭和34	二、八〇〇
25	松尾芭蕉	昭和49	一、二〇〇
26	芭蕉研究	昭和12	五、八〇〇
27	芭蕉の芸術	昭和34	二、五〇〇
28	芭蕉翁伝	昭和11	二、〇〇〇
29	芭蕉伝記考	昭和38	四、五〇〇
30	俳人芭蕉の研究	昭和18	三、〇〇〇
31	芭蕉の自我と救い	昭和43	一、〇〇〇

32	旅人芭蕉抄	昭和47	三、〇〇〇
33	蕉門の人々	昭和21	一、二〇〇
34	芭蕉の門人	昭和22	四、〇〇〇
35	芭蕉と門人	昭和22	二、〇〇〇
36	芭蕉・去来	昭和16	一、〇〇〇
37	芭蕉と杜甫	昭和44	一、〇〇〇
38	芭蕉と寿貞尼	昭和31	三、五〇〇
39	曾良の細道随行日記(引線アリ)	昭和18	二、〇〇〇
40	奥の細道創見	昭和24	三、五〇〇
41	奥の細道新解	昭和26	三、〇〇〇
42	奥の細道・芭蕉・蕪村	昭和18	三、〇〇〇
43	未刊蕪村句集	昭和7	三、〇〇〇
44	蕪村の解釈と鑑賞	昭和31	三、八〇〇
45	蕪村	昭和18	一、二〇〇
46	蕪村—生涯と芸術—	昭和29	一、五〇〇
47	鬼貫論	昭和19	四、五〇〇
48	俳諧寺一茶	昭和12	三、八〇〇
49	《古典文庫分売》		
50	12提中納言物語	昭和23	四、〇〇〇
51	17西鶴諸国はなし	昭和28	二、〇〇〇
52	20いはでしのお	昭和24	二、〇〇〇
53	21異版日本永代蔵	昭和24	二、〇〇〇
54	24世間胸算用	昭和27	一、四〇〇
55	2829好色一代男(江戸版)	昭和24	一、〇〇〇
56	34西鶴文反古	昭和25	一、四〇〇
57	38中世神佛説話	昭和25	一、五〇〇
58	39西鶴俗つれづれ	昭和25	一、五〇〇
59	4546諸艶大鑑	昭和26	二、〇〇〇
60	47春物語	昭和26	三、五〇〇
61	58西鶴置土産	昭和27	一、五〇〇
62	70本朝二十不孝	昭和28	二、〇〇〇
63	105方丈記(兼良本)十六夜日記(遠州本)	昭和31	八、〇〇〇
64	108日本永代蔵(三都版)	昭和31	三、〇〇〇
65	110未刊中世小説(四)	昭和31	三、〇〇〇
66	113連歌論新集	昭和31	二、〇〇〇
67	114武家義理物語	昭和31	二、〇〇〇
68	115小夜衣(校本)	昭和32	二、〇〇〇
69	117室町時代物語(三)	昭和32	二、〇〇〇
70	118地蔵靈験記絵詞集	昭和32	三、〇〇〇

71	萩原井泉水	昭和47	三、〇〇〇
72	市橋鐸他	昭和21	一、二〇〇
73	山崎喜好	昭和22	四、〇〇〇
74	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
75	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
76	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
77	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
78	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
79	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
80	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
81	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
82	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
83	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
84	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
85	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
86	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
87	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
88	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
89	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
90	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
91	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
92	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
93	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
94	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
95	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
96	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
97	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
98	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
99	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇
100	山崎喜好	昭和22	二、〇〇〇

電話(〇七五)二三一一二九七一
振替 京都二一五三八

〒604 京都市中京区壬生下溝町七

電話 (〇七五) 三二五一五六〇

電話(〇七五)三五一九二六三
振替 大阪 七十三一五二

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

- 1 大徳寺大綱和尚和歌懷紙 茶掛雪の歌八上表紙 横一幅 翼四〇〇〇
- 2 里村玄心昌胤筆 元日連歌懷紙 横一幅 翼三〇〇〇
- 3 村上素道筆 己亥春切詩文大通寺真言僧元録頓 横一幅 翼三〇〇〇
- 4 南谷照休筆 一行書 漢委出行万里路 33×136 横一幅 翼三〇〇〇
- 5 佐久間象山自筆消息 通和歌一首貼ませ 幅20×85 横翼四〇〇〇
- 6 中村敬字筆偶成詩文「西園立志篇」等著者28×125 幅一五〇〇〇
- 7 狩野溪雪筆花鳥十一ヶ月短冊 文化頃の人 十二枚 一五〇〇〇
- 8 田能村直人肉筆水墨画 幅マクリ 8×23 一枚 三、五〇〇
- 9 採名居士肉筆不動明王墨画 幅マクリ 16×23 一枚 一、〇〇〇
- 10 採名居士肉筆観音大士墨画 幅マクリ 16×23 一枚 一、〇〇〇
- 11 阿字観関保古写本一括 室町期江戸期観 六〇〇〇
- 阿字観事室町期阿字観口決類纂江戸初 阿字観御用口心決椿尾記江戸末 阿字観椿尾伝江戸初 阿字観意得(宝永写) 阿字観鈔拔書(江戸) 七点

二〇〇、〇〇〇

〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷 書 店

電話(〇七五) 三六一七六九五
振替 京都 一一一七九

33	神祕思想論集 インド古典研究Ⅵ 成田山新勝手	昭59	二五,〇〇〇
32	佛教思想論集 奥田慈応先生喜寿記念	昭59	二六,〇〇〇
31	印度学仏教学論集 山口博士還暦記念	昭51	五,〇〇〇
30	印度学仏教学論集 金倉博士古稀記念	昭30	五,〇〇〇
29	荻原雲来文集	昭41	三,〇〇〇
28	荻原雲来文集	昭41	三,〇〇〇
27	佛教心理学の研究 佐々木現順	昭36	八,〇〇〇
26	初期唯識思想の研究 舟橋尚哉	昭45	六,〇〇〇
25	護法宗唯識考 富貴原章信	昭51	二五,〇〇〇
24	護法宗唯識考 富貴原章信	昭51	二五,〇〇〇
23	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
22	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
21	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
20	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
19	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
18	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
17	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
16	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
15	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
14	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
13	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
12	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
11	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
10	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
9	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
8	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
7	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
6	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
5	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
4	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
3	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
2	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇
1	唯識心理学 井上玄真	昭30	八,〇〇〇

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路駅電交差北)

山 崎 書 店

電話(〇七五) 七一一七二四八
振替 京都 〇一一八三六

1	世界素描大系 全六冊(別冊共) 講談社	昭54	五,〇〇〇
2	萬國図案大辞典 元版 全二十一冊	昭4	八,〇〇〇
3	萬國図案大辞典 全七冊 第一書房復刻	昭52	七,〇〇〇
4	辻まこと全画集 全一冊 第一書房復刻	昭55	四,〇〇〇
5	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
6	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
7	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
8	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
9	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
10	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
11	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
12	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
13	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
14	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
15	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
16	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
17	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
18	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
19	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
20	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
21	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
22	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
23	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
24	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
25	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
26	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
27	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
28	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
29	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇
30	模範花鳥画譜 限定 毎日新聞社	昭50	二六,〇〇〇

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

福田屋 書 店

電話(〇七五) 七八一一三二六

1	経済史研究—京都の研究特輯 本庄 昭6、5月	昭6	二,〇〇〇
2	市政概要 昭10、14、18、24年度 4冊 市役所	昭3	八,〇〇〇
3	京都府之商工業 府商工課	昭3	二,〇〇〇
4	京都府金融要覧 府商工課	昭3	二,〇〇〇
5	京都府業務局備員生計調査 市業務局	昭9	二,〇〇〇
6	京都府町名録 京都市用品商會	昭25	二,〇〇〇
7	西陣機業概観 京都二商	昭4	二,〇〇〇
8	旧御寮織物司三上家略史(西陣)	昭10	二,〇〇〇
9	京之華—府下特産物名産品沿革 内務部	昭15	二,〇〇〇
10	京都府立衛生試験所報告 第18回	昭15	二,〇〇〇
11	京都府葛野郡史概要	昭11	八,〇〇〇
12	小野郷会々則名簿昭6	昭11	八,〇〇〇
13	大4.大賞祭造営御用昭5.三冊	昭15	二,〇〇〇
14	京都府神社略記 市観光課	昭11	二,〇〇〇
15	京都府神社略記 京都神社職會	昭11	二,〇〇〇
16	豊國神社誌 豊國神社	昭11	二,〇〇〇
17	平野神社御鎮座地ノ変遷二就テ	昭11	二,〇〇〇
18	熊野若王子神社概誌 全社務所	昭12	二,〇〇〇
19	維新勤皇烈士西土居殉難地顯彰趣意書	昭17	二,〇〇〇
20	六角牢殉難勤王志士忠靈塔に就テ	昭15	二,〇〇〇
21	京都郷土芸能誌 市観光課	昭24	二,〇〇〇
22	舞踏之花—都踊代々のしらべ 藤本梅翁	昭24	二,〇〇〇
23	角屋—京島原の沿革	昭14	二,〇〇〇
24	都風流トコトナヤレ節練刻 後藤捷一	昭10	二,〇〇〇
25	觀光の嵐山 嵐山保勝會	昭11	二,〇〇〇
26	洛北名物里子の話 府社会課	昭13	二,〇〇〇
27	西京風雅詩集 百癡居士編 京文港堂	昭28	二,〇〇〇
28	織物の西陣. 京都の古建築. 石造美術と京都	昭28	二,〇〇〇
29	京都史蹟古美術提要. 京都の障壁画、古建築	昭16	各二,〇〇〇
30	庭園. 彫刻. 仏画. 京都市観光課版	昭16	各二,〇〇〇
	大札奉祝会記要 京都府立	昭12	三,〇〇〇

* Books about Books

1. Allen, Chales Dexter. AMERICAN BOOK PLATES. a guide to their study, with a bibliography by E.N.Hewins. 437pp. 8 copper-plates 22 full-page reproductions, & over 100 illus. with text. 19x15. cloth, Top Gilt. London. 1895. ¥28,000
2. Clark, John Willis. THE CARE OF BOOKS. an essay on the development of Libraries & their Fittings, from the Earliest times to the End of The 18th. Century. 352pp. 164 illus. 27.5x19. cloth. Cambridge at the Univ. Press. 1909. ¥44,000
3. Holme, Charles. (Redacteur.) L'ART DU LIVRE. etude sur quelques-uns des dernier creations en Typographie, Ornementation de text es, et Reliures, Execteesen Europe et en Amerique. 276pp. many illus., fine color & B/W. 28.5x20.5. Studio, French ed. 1914. ¥32,000
4. Immelman, R.F.M. (Preface.) SOUTH AFRICAN BOOK PLATES FROM THE PERCIVAL L.G. BISHOP COLLECTION. an intro. & notes by F.L.Alexander. and an index by Bishop. 108pp. 70 plates in color & B/W. 22.5x14, cloth. A.A. Balkema, Amsterdam, Capetown, 1955. ¥28,000
5. Lefard, Andre. THE ART OF FRENCH BOOK : from early manuscripts to the present time. intro. by Philip James. This Book on Based on the world famous collection in the Bibliotheque Nationale in Paris. 166pp. 182 plates, 17 in color. 32x24.5. cloth. P. Elek. no date. London. ¥13,000
6. Oldham, J. Basil. BLIND PANELS OF ENGLISH BINDERS. 55 text pp. 47 plates illus. in B/W. 38x25, cloth. Cambridge Univ. Press. 1958. ¥58,000
7. Rosenbach, A.S.W. A BOOK HUNTER'S HOLIDAY. adventures with book & manuscript. 259pp. 76 illus. 25x17. cloth. H. Mifflin, New York. 1936. ¥54,000
8. Rosenbach, A.S.W. BOOK AND BIDDERS. the adventures of a Bibliophile. 311 pp, 89 illus. 24.5x17. cloth. top gilt. L. Brown, Co. Boston, 1927. ¥54,000
9. Rosenbach, A.S.W. TO DOCTOR R. Essays here collected and Published in Ho er of the Seventieth Birthday. 301pp, 13 illus., 24.5x16.5 cloth. Philadelphia. 1946. ¥58,000
10. Album of EX LIBRIS. Over 390 Ex Librises tipped in the Album, by collector. some in color . some stained. no date, mostly, Heraldic motifs. 31.5x25. private collections. ¥80,000
11. Hunphreys, Henry Noel. THE ORIGIN AND PROGRESS OF THE ART OF WRITING : A Connected Narrative of the Development of the Art, in Its Primeval, Phases in Egypt, China, & Mexico, its Middle State in the Cuneatic Systems of Nineveh and Persepolis, second ed. 178pp. 28 plates, some in color. 26.5x19, Gilt Edge. BLACK PAPIER MACHE on Red Paper. Day & Son, London. 1855. Fine Binding ¥150,000
12. Caxton, William. THE GAME OF CHESSE. A Facsimile Reproduction of the Copy in the British Museum. Only 80 copies on Sale. 186pp. about 30 illus. in mono. 29x21, leather, Gilt Edge. Truebner & Co., London, 1862 Very Good Condition. ¥100,000

〒600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一七八七九三
振替 京京都 一七九三三八

書誌・染織・服飾・民俗・工芸・関係の在庫リスト発行中 送料各二二〇円(切手可)

営業(平日) 10時—20時(日・祭) 13時—19時

文 藻 堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル
電話(075-231-1914) 振替 京都8-6151 桜東雄 讀補族長歌
(未表装 51×38 厘米) 一紙五〇、〇〇〇円

讀補族長歌

東雄

死變生及有大王之大
勅命爾不服逆醜奴乎
劫盡住奉止釵太刀磨
心手蒙如堅約束而顯身之
命元有補通字加良拱八知
食百八十國乃武士人鎮止
天地日月共語詞言續持
行字加良拱者

(金銀緑飛雲地模様)

2 本居大平 僧兵面贊(墨画)
(未表装 45×33 厘米) 一紙一五、〇〇〇円やとまて
かたの
川は
あま
はけい
おの
山おろし
うめ
大平ともすれば加茂の川流あらたうはげしき
飛衣(比較)の山おろしかな3 本居大平 桜の文 細字18行(56×44 厘米)
4 本居内遠 「新樹」の詠草(45×33 厘米)
5 桜東雄 短冊 元旦 導尔氣武神代所念一紙 一二、〇〇〇円
一紙 一二、〇〇〇円
美 三八、〇〇〇円

6 頼杏坪 短冊 筆奴

手習の墨かと見れば里の子が
かはに引あふ家のめはじき

一二、〇〇〇円

筆奴

手習の墨かと見れば里の子が
かはに引あふ家のめはじき

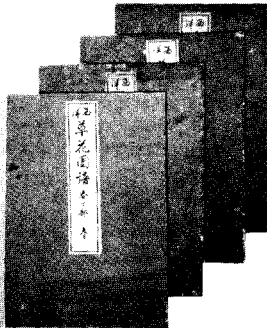
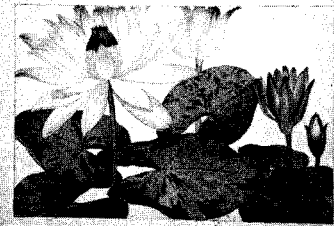
7 立原杏所 短冊 題 日田曉望 七絶詩 署名「東軒生」 美 一五、〇〇〇円

日田 東軒生 曉望 七絶詩 署名「東軒生」

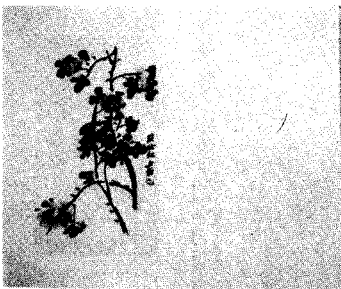
8 高橋泥舟 短冊 行進もたゆるばかりにいぬ夢の
○なもからき世には有ける(銀砂子) 三〇、〇〇〇円行進もたゆるばかりにいぬ夢の
○なもからき世には有ける(銀砂子)9 野村望東尼 短冊 述懐 おとにのみき・て過にし古しへを
いま・たおとにき・てしぬ(思ふる) 三五、〇〇〇円述懐 おとにのみき・て過にし古しへを
いま・たおとにき・てしぬ(思ふる)10 下田歌子 短冊 湊川懐古 みなと川水はかれても大地に
あふる・ものは誠なりけり 一五、〇〇〇円湊川懐古 みなと川水はかれても大地に
あふる・ものは誠なりけり11 比田井小琴 短冊 としの としのたつかどのわか松わかへり
はじめに ちとせのはるも君ぞむかへむ 美 一五、〇〇〇円としの としのたつかどのわか松わかへり
はじめに ちとせのはるも君ぞむかへむ12 税所敦子 短冊 題 朝雲雀 美 七、〇〇〇円
13 高崎正風 短冊 題 春雪 美 七、〇〇〇円



昭和舞台姿 番蝶楼 太田雅光画
限定版 昭和初 8枚 ¥100,000



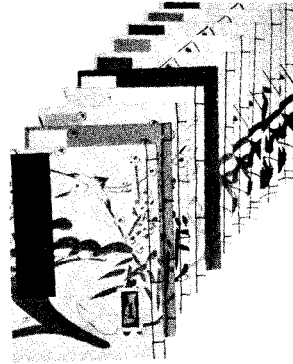
西洋草花図譜 (元版) 谷上広南 芸艸堂
大正6年 全5冊 ¥180,000



吳昌碩花卉冊 木版画帳 全十二図
1959 北京 ¥50,000

大書堂

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル
電話 (075) 221-0685
振替 京都7-3165



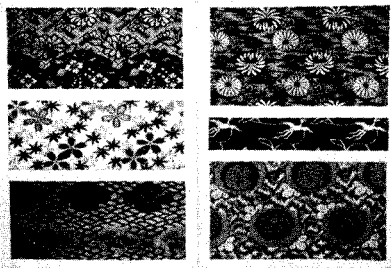
おもちゃ画譜 (元版) 川崎巨泉
昭和7年 全10冊 ¥300,000



景年花鳥画譜 (元版) 今尾景年 芸艸堂
明治25年 全4冊 ¥420,000



齊白石画集 木版画帳 全二十二図
シケ有り 1952 北京 ¥45,000



名物裂張込帳 149種 ¥100,000

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町35

石川古本店

電話(〇七五) 七一一五四二九
振替 京都 七一一三〇八九

1	同志社百年史	通史編 二冊揃	昭和54	七、〇〇〇
2	鳳徳五十年史	鳳徳小学校	昭和56	一、五〇〇
3	明徳五十年史	明徳学園	昭和45	二、〇〇〇
4	東山学園百年史	同学園編纂会	昭和42	二、〇〇〇
5	大和学園五十年のあゆみ		昭和56	二、五〇〇
6	成徳百年誌	成徳中学校 箱入	昭和44	二、五〇〇
7	大教校百年誌	大教小学校	昭和48	二、五〇〇
8	華頂短期大学三十年のあゆみ		昭和57	二、五〇〇
9	京都地方貯金局沿革史		昭和30	二、〇〇〇
10	戦後二十年の闘い(日本共産党京都府本部)		昭和52	二、〇〇〇
11	京都府医師会二十年史		昭和43	三、〇〇〇
12	京都府議会史 資料編(昭和二十年~46年)		昭和46	三、〇〇〇
13	京都市会決議録第二十二号甲		昭和43	三、〇〇〇
14	京都における共産党の政策 1		昭和53	一、〇〇〇
15	西陣労働者の闘い 全西陣織物労働組合		昭和13	三、〇〇〇
16	京都美術青年会誌 古筆功序説上 第十五号		昭和35	二、五〇〇
17	年刊文芸京都(一九六十年版)		昭和40	二、五〇〇
18	椿特輯第六号 京都園芸倶楽部(表紙志功)		昭和58	三、〇〇〇
19	城下町伏見町名の由来と秘話(純)とも2冊		昭和39	一、五〇〇
20	新撰京都名所図会 第五巻		昭和45	二、五〇〇
21	京都の明治文化財(美術、工芸)		昭和52	二、五〇〇
22	千本支部再建十五年史 部落同盟千本支部		昭和44	三、〇〇〇
23	京都社会史研究 同大入文学科学研究所		昭和44	三、〇〇〇
24	京都の茶家 井口海仙		昭和18	四、〇〇〇
25	京都仏像図説 美術史学会		昭和44	四、〇〇〇
26	京都の障壁画 京都市観光課		昭和18	四、〇〇〇
27	ワコール二十年のあゆみ		昭和54	二、〇〇〇
28	ワコール二十年のあゆみ		昭和44	二、〇〇〇
29	北桑災害誌 箱付美本		昭和29	二、〇〇〇
30	山紫水明 京都織物商同盟会		昭和22	五、〇〇〇
31	京都教育(約30頁)		昭和12	一、〇〇〇
32	京都鞍馬寺案内		昭和15	一、〇〇〇

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系と
学術書専門 山書店電話(〇七五) 七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

1	新修京都叢書 全20冊	光彩社	昭和44	五、〇〇〇
2	京都府百年の資料・年表 全19冊	同府	昭和46	六、〇〇〇
3	京都府統計史料集 全4冊	同府	昭和46	六、〇〇〇
4	京都市の地名	平凡社	昭和54	八、八〇〇
5	京都市社会科調査報告 全10分冊	同市	昭和53	二、〇〇〇
6	京都労働運動史年表 全2冊	同府	昭和45	二、〇〇〇
7	全電通京京運動史	同労組	昭和55	二、五〇〇
8	京都府国防協会基金提出者芳名録	同会	昭和11	二、五〇〇
9	京都府議会史 全6冊	同議所編	昭和46	三、〇〇〇
10	京都市に於ける商店街に関する調査同右	同局	昭和11	一、五〇〇
11	京都市営電気事業沿革誌 京都市電氣局	前田達三	昭和35	四、〇〇〇
12	西陣織物館記		昭和46	二、〇〇〇
13	丹後機業の現況 全2冊 丹後織物組合		昭和53	二、〇〇〇
14	京くみひも 全京都組紐連合会		昭和45	五、〇〇〇
15	京都印刷一千年史 京都府印刷工業組合		昭和47	八、〇〇〇
16	京都嵯峨材木史 嵯峨材木KK		昭和32	三、〇〇〇
17	京都市中央卸売市場三十年史 京都市		昭和42	五、〇〇〇
18	京都府山林誌(改装本) 京都府山林会		昭和30	八、〇〇〇
19	丹後伊根浦漁業史 伊根漁業協同組合		昭和23	三、〇〇〇
20	京の百景 全18葉 京都府		昭和44	二、〇〇〇
21	京都石造美術の研究 川勝政太郎		昭和44	二、〇〇〇
22	京都府文化財図録 全2冊 府教委		昭和44	二、〇〇〇
23	京都民俗志 井上頼寿		昭和44	二、〇〇〇
24	京都府の民家調査報告 全5冊 府教委		昭和44	二、〇〇〇
25	巨椋池干拓誌 池本甚四郎		昭和37	四、〇〇〇
26	綾部市史 全3冊 同編さん会		昭和52	三、〇〇〇
27	八坂神社記録 上下 同社務所		昭和42	五、〇〇〇
28	下御霊神社誌 上下 同編纂会		昭和42	五、〇〇〇
29	大本七十年史 上下 同記念会		昭和37	八、〇〇〇
30	伏見稲荷大社年表 同記念会		昭和29	八、〇〇〇
31	天理教山国大教会史		昭和29	八、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五) 四五一一〇五三三
振替 京都 三十一九一四八

1	源氏物語綱要 藤田徳太郎 不老閣	函付	昭和3	二、〇〇〇
2	評釈万葉集傑作選 橋田東聲 聚芳閣	函付	昭和14	一、五〇〇
3	万葉集物語(表紙綴)尾山篤二郎 紅玉堂	函付	昭和14	一、五〇〇
4	近世国文学序説 藤村作 雄山閣	函付	昭和2	一、五〇〇
5	日本文学の精神 久松潜一 大日本図書株式	函付	昭和12	二、〇〇〇
6	修辞学大要 五十嵐力 斯文書院	函付	昭和13	一、八〇〇
7	古代国語の研究 安藤正次 内外書房	函付	昭和14	一、八〇〇
8	小さい国語学 安藤正次 広文堂	函付	昭和2	一、〇〇〇
9	国語の変遷 金田一京助 ラジオ新書	函付	昭和16	一、〇〇〇
10	国語の源流と仮名遣問題 保科孝一 ラジオ新書	函付	昭和17	一、〇〇〇
11	国語アクセント講話 佐久間鼎 同文館	函付	昭和12	一、八〇〇
12	謡曲評釈 九冊揃 大和田建樹 博文館	函付	昭和14	二、〇〇〇
13	学生のための謡曲の鑑賞 小林静雄 博文館	函付	昭和14	二、〇〇〇
14	作歌と助辞 三矢重松 明治書院	函付	昭和15	一、五〇〇
15	百人一首講義 三十七版 佐々木信綱 博文館	函付	昭和15	一、五〇〇
16	短歌講座一卷 歌史歌體篇 改造社	函付	昭和6	一、三〇〇
17	短歌講座二卷 作法書式篇 改造社	函付	昭和6	一、三〇〇
18	短歌講座三卷 名歌鑑賞篇 改造社	函付	昭和7	一、五〇〇
19	短歌講座四卷 概論解説篇 改造社	函付	昭和7	一、五〇〇
20	短歌講座七卷 歌人評伝篇 改造社	函付	昭和6	一、五〇〇
21	短歌講座九卷 修辞文法篇 改造社	函付	昭和7	一、五〇〇
22	続帝國文庫 36巻 俗曲大全 博文館	函付	昭和15	二、〇〇〇
23	北條中学校沿革誌 非売品 同会	函付	昭和15	一、八〇〇
24	神陵小史 非売品 三高同窓会	函付	昭和10	一、八〇〇
25	空歌集 昭和十六年版 非売品 第四高等学校	函付	昭和36	一、五〇〇
26	行幸啓記念誌 回顧と展望 武庫川学院	函付	昭和32	一、三〇〇
27	日本国民性の研究 解放四月特大大 解放社	函付	昭和13	一、〇〇〇
28	芸術概論 黒田鶴心 弘文社	函付	昭和10	一、〇〇〇
29	服装の歴史 三冊揃 村上信彦 理論社	函付	昭和30	二、四〇〇
30	宇野浩二伝 上下 水上勉 中央公論社	函付	昭和46	四、八〇〇
31	ターウキン伝 偉人伝全集 駒井卓 改造社	函付	昭和7	一、〇〇〇
32	ビスマルク伝 偉人伝全集 信夫淳平 改造社	函付	昭和7	一、〇〇〇
33	藤蔭餘影 山本藤助		昭和2	一、二〇〇

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律・経済・思想
一般書

電話(〇七五) 七六一四四五
振替 京都 五一四二六二二

竹岡書店

31	日本の真像 外国に犯された女性たちの手記水野瀧	昭28	三〇〇〇
30	匪賊と共に(新書)	昭31	一五〇〇
29	女の防波堤	昭32	一五〇〇
28	結婚と恋愛の歴史	昭25	一八〇〇
27	女性を中心にした江戸時代史	昭11	一五〇〇
26	ミシユレ 革命の女たち	昭25	一五〇〇
25	経済学大綱 上・下	昭21	一五〇〇
24	アメリカ資本主義の構造	昭38	一五〇〇
23	スミス経済学の系譜	昭22	一五〇〇
22	ティンバーレン 経済発展計画論 尾上	昭38	一五〇〇
21	フイツィヤ 石油帝国主義 荒畑寒村	昭28	一五〇〇
20	日本平和と経済の理論 日本労働組合総評	昭28	一五〇〇
19	共産主義とは 社会主義の批判 宮瀬	昭24	一五〇〇
18	社会学史(現代の社会学) 東京社会科学研	昭23	一五〇〇
17	新体制の指導原理 我団体に基く	昭15	一五〇〇
16	カー・革命の研究	昭27	一五〇〇
15	マーク・ゲイン ニッポン日記 井本威夫	昭27	一五〇〇
14	日本の産業革命	昭43	一五〇〇
13	文化革命	昭24	一五〇〇
12	戦後の歴史と歴史意識	昭43	一五〇〇
11	王朝政治史論	昭45	一五〇〇
10	東亜日本と建設	昭17	一五〇〇
9	日本及日本国民の起源	昭4	一五〇〇
8	動態的世界観	昭19	一五〇〇
7	世界観・国家観・人生観	昭17	一五〇〇
6	生哲学 (現代哲学叢書)	昭17	一五〇〇
5	日本精神の要諦と精神の大道	昭15	一五〇〇
4	クルトシュナイデル 精神病質人格	昭21	一五〇〇
3	哲学的経験の体制 三島唯義	昭45	一五〇〇
2	ケエーラ 心理学における力学説 相良	昭26	一五〇〇
1	吉ルソン	昭45	一五〇〇

32 医学に関する奇談異聞 田中祐吉
33 空襲下の救護法 東京都青少年団編
34 国意考 外九篇(日本思想闘争史料) 武谷三男
35 現代の理論的諸問題 末川博
36 法律と人間 ヴテレス
37 ヴテレス 熟練の科学(背痛) 大江專一
38 天文歴史学上に於ける間重富とその一家 (少シツケ) 渡辺敏夫
39 契沖の生涯 久松潜一
40 佐久間象山とその先覚思想 斎藤鹿三郎
41 草莽の臣 高山彦九郎 岡 不可止
42 松下村塾の指導者 徳富猪一郎
43 吉田松陰 玖村敏雄
44 吉田松陰 中川 重編
45 偉人 野口英世号 安倍能成
46 岩波英雄傳 竹下直之
47 道義の世界観と教育 東京教育大
48 国民教育の課題 吉田熊次
49 新訂 国民教育の心理 稲富栄次郎
50 文化と教育上の諸問題 武政太郎
51 現代哲学と教育学(少シツケ) 杉谷雅文
52 改訂 児童の心理と家庭教育講話 石川七五三
53 美術教育 図画の学習と指導 細島昇一
54 生活と数理の関連に立つ関数観念の 指導法(極少線引) 藤原安治郎
55 直観幾何教授の理論と実際 国元東九郎
56 日本教育革新宣言 杉山謙治
57 青年教師の書 上田庄三郎
58 華頂学園五十年史 同学園
59 柳池校百年史 同校記念委員会
60 神陽 川瀬校長追悼號 第四号 旅順高
61 同陽 川瀬校長追悼號 第四号 旅順高
62 同志社百年史 全四冊 上野直蔵編纂
63 京都大学七十年史 同史編纂委
64 京都府官立教育百年史 磯辺 實
65 サイモンズ児童精神衛生学 磯辺 實

67	サイモンズ児童精神衛生学	昭16	三〇〇〇
66	京都府官立教育百年史	昭53	一〇〇〇
65	同志社百年史 全四冊	昭42	一〇〇〇
64	同志社百年史 全四冊	昭54	一〇〇〇
63	神陽 川瀬校長追悼號 第四号 旅順高	昭14	一〇〇〇
62	同志社百年史 全四冊	昭42	一〇〇〇
61	柳池校百年史	昭49	一〇〇〇
60	華頂学園五十年史	昭37	一〇〇〇
59	青年教師の書	昭11	一〇〇〇
58	日本教育革新宣言	昭19	一〇〇〇
57	直観幾何教授の理論と実際	大14	一〇〇〇
56	文化と教育上の諸問題	昭4	一〇〇〇
55	美術教育 図画の学習と指導	昭23	一〇〇〇
54	生活と数理の関連に立つ関数観念の	昭15	一〇〇〇
53	現代哲学と教育学(少シツケ)	昭29	一〇〇〇
52	改訂 児童の心理と家庭教育講話	昭2	一〇〇〇
51	新訂 国民教育の心理	昭18	一〇〇〇
50	国民教育の課題	昭18	一〇〇〇
49	道義の世界観と教育	昭32	一〇〇〇
48	学校行政(教育大学講座)	昭29	一〇〇〇
47	岩波英雄傳	昭11	一〇〇〇
46	偉人 野口英世号	昭14	一〇〇〇
45	吉田松陰	昭16	一〇〇〇
44	吉田松陰	昭17	一〇〇〇
43	草莽の臣 高山彦九郎	昭19	一〇〇〇
42	松下村塾の指導者	昭17	一〇〇〇
41	佐久間象山とその先覚思想	昭17	一〇〇〇
40	契沖の生涯	昭18	一〇〇〇
39	天文歴史学上に於ける間重富とその一家	昭12	一〇〇〇
38	渡辺敏夫	昭23	一〇〇〇
37	久松潜一	昭43	一〇〇〇
36	斎藤鹿三郎	昭5	一〇〇〇
35	武谷三男	昭19	一〇〇〇
34	末川博	昭6	一〇〇〇
33	田中祐吉	大6	一〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四二二
萩書房

電話(〇七五) 四三一三七二
振替 京都 八一四三六

33	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭31	一五〇〇
32	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭10	一五〇〇
31	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
30	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
29	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
28	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
27	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
26	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
25	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
24	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
23	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
22	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
21	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
20	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
19	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
18	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
17	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
16	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
15	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
14	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
13	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
12	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
11	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
10	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
9	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
8	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
7	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
6	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
5	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
4	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
3	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
2	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇
1	映画旬刊 創刊号第十七号迄 十七冊揃	昭8	一五〇〇

井 上 書 店

千 606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)電話 (〇七五) 七八一三三二
振替 京都 七二二四九七

1	石造美術	川勝政太郎	昭19	一八〇〇
2	大和の石造美術	川勝政太郎	昭18	二五〇〇
3	燈籠・手水鉢	川勝政太郎	昭17	一八〇〇
4	近畿 茶室行録	岡田孝男	昭18	二五〇〇
5	日本庭園の観賞	重森三玲	昭10	二二〇〇
6	杜寺の庭園	重森三玲	昭15	二五〇〇
7	庭園の鑑賞と築造	上原敏二	昭6	二〇〇〇
8	新撰庭園秘傳 上	秋里大原著・松本室増補	昭10	四〇〇〇
9	満洲事変実話	関東軍参謀部	昭7	二五〇〇
10	満洲奇秘話	金子泰次編	昭13	二五〇〇
11	満洲に於ける国際争覇	ボール・クライド 植田捷雄訳	昭10	三〇〇〇
12	満洲出現の合理性	ブロン・レー著・田村幸策訳	昭11	三〇〇〇
13	満洲経済と日本経済	高橋亀吉	昭9	一五〇〇
14	南洋と華僑	井出季知太	昭18	一五〇〇
15	アフリカ探検上下	世界探検全集	昭40	四〇〇〇
16	時計修理技術の秘訣上下	東京時計研究所	昭5	三〇〇〇
17	川西英白選版画集	神戸新聞社	昭40	六〇〇〇
18	京都市政史 上下	京都市	昭16	五〇〇〇
19	平家物語評議 上下	佐々木八郎 明治書院	昭56	二〇〇〇
20	萬葉集助詞の研究	小政一光	昭55	二〇〇〇
21	菱銀行史 正・続	吉川幸次郎	昭29	五〇〇〇
22	元雜劇研究	津田在右吉	昭14	四〇〇〇
23	道家の思想と其の展開	北山茂夫	昭38	二〇〇〇
24	萬葉の世紀	岩波書店	昭52	三〇〇〇
25	芥川龍之介全集	中央公論社	昭41	五〇〇〇
26	谷崎潤一郎全集	中央公論社	昭52	三〇〇〇
27	錦絵 幕末明治の歴史	岩波書店	昭46	二〇〇〇
28	臨外全集	新潮社	昭53	一六〇〇
29	小林秀雄全集	岩波書店	昭40	四〇〇〇
30	西田幾多郎全集	岩波書店	昭50	五〇〇〇
31	陶磁大系	平凡社	昭53	二〇〇〇
32	世界の民族	平凡社	全20冊	二〇〇〇

(株) 善 書 堂

千 602 京都市上京区河原町今出川上ル

電話 (〇七五) 一三二一七七一一

1	市村博士古稀記念	東洋史論叢	昭8	三〇〇〇
2	白鳥博士還暦記念	東洋史論叢	昭14	二五〇〇
3	加藤博士還暦記念	東洋史集説	昭16	七〇〇〇
4	森三樹三博士頌壽記念	東洋史論集	昭54	二五〇〇
5	内田吟風博士頌壽記念	東洋史論集	昭53	九〇〇〇
6	蒙古法の基本原理	東洋史論集	昭18	六〇〇〇
7	蒙古社会制度史	外務省調査部	昭16	七〇〇〇
8	支那の白人の世界	黄人の世界	昭4	四〇〇〇
9	支那屯田兵制史	人文閣	昭17	六〇〇〇
10	生活習慣北支那篇	米田祐太郎	昭16	二五〇〇
11	支那社会経済史研究	玉井是博 岩波書店	昭17	二〇〇〇
12	支那古代社会史論	福津正志 河出書房	昭18	五〇〇〇
13	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
14	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
15	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
16	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
17	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
18	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
19	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
20	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
21	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
22	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
23	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
24	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
25	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
26	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
27	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
28	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
29	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
30	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇
31	支那の天文学	山崎正太郎 能登志雄譯	昭18	八〇〇〇

三 密 堂 書 店

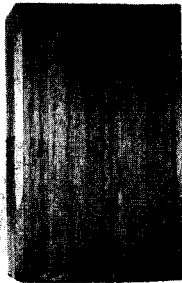
千 600 京都市下京区寺町通仏光寺

電話 (〇七五) 三五一九六六三
振替 京都 三二四七一

1	周易講義二冊揃	根本通明著	大7	一五〇〇
2	周易講義	新田典著	昭9	六〇〇〇
3	易学概論	上野清著	昭8	四〇〇〇
4	易と中庸の研究	武内義雄著	昭18	二五〇〇
5	趣味の易典	松田定象著	昭9	五〇〇〇
6	新選易学小室	前島熊吉著	昭10	六〇〇〇
7	現代易占講話	前島熊吉著	昭6	四〇〇〇
8	骨相学と人相学の研究	前島熊吉著	昭10	六〇〇〇
9	手相学と指紋の研究	前島熊吉著	昭6	四〇〇〇
10	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
11	読易図例	真勢中州著	昭17	二〇〇〇
12	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
13	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
14	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
15	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
16	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
17	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
18	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
19	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
20	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
21	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
22	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
23	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
24	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
25	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
26	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
27	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
28	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
29	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
30	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
31	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
32	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇
33	易の語一冊揃	遠藤隆吉著	昭17	二〇〇〇

キクオ書店

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル(朝日会館前)
電話 (075-231-7634) 振替 京都 8-17640

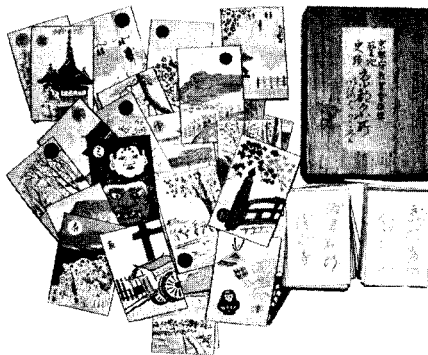


信篤院様被遊置候
伊勢物語カルタ(江戸後期)
手描札 上の句、下の句(5×5.5 匁)
各23枚(内各5枚、白札5枚)
九五、〇〇〇円



石版摺 小倉百人一首(大正初)
木箱入(札4.8×7 cm)
18,000円

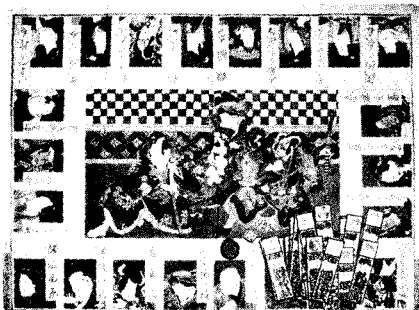
聖地 京都名所いろはかるた 昭18
史蹟 吉沢義則・上田星郎 書 各48枚
徳力富吉郎 版画
桐箱入(札6×9 cm) 四〇、〇〇〇円



石版摺未裁断百人一首
雲母紙彩色石版摺五枚
51×75 匁一枚
一五、〇〇〇円



木製取札 小倉百人一首
北海道製造(新品)(札5×7.6cm) 5,500円



芝居札取り遊び
芳虎画 彩色木版 50×38 匁
手札22枚・象牙サイコロ付
桐箱入 三三、〇〇〇円



見立狂言寿語録
国周画彩色木版73×72 匁
袋付 六〇、〇〇〇円

〒602 京都市上京区大宮通出水下る
家永町七六一

文庫堂

電話(〇七五)八二二七二五九
振替 京都 二一四二五七九

33	京都風土記 大塚五郎	昭和16	一、〇〇〇
32	大和の古墳墓	昭和16	一、〇〇〇
31	近畿ハイキング大観 須古清編	昭和16	一、〇〇〇
30	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
29	近畿ハイキング大観 松川二郎	昭和16	一、〇〇〇
28	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
27	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
26	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
25	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
24	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
23	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
22	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
21	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
20	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
19	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
18	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
17	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
16	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
15	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
14	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
13	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
12	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
11	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
10	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
9	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
8	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
7	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
6	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
5	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
4	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
3	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
2	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇
1	近畿ハイキング大観 大正写真工芸所	昭和16	一、〇〇〇

34	京名所案内記 東村日出男	昭和2	二、〇〇〇
35	歴代皇陵参拝誌 渡辺壽雄	昭和2	二、〇〇〇
36	伝説ロマン 渡辺壽雄	昭和2	二、〇〇〇
37	日本軼事 渡辺壽雄	昭和2	二、〇〇〇
38	日本軼事 渡辺壽雄	昭和2	二、〇〇〇
39	名勝温泉案内 松川二郎	昭和2	二、〇〇〇
40	国体本位の宗教教育 中根環堂	昭和2	二、〇〇〇
41	宗教的信仰と教育 青柳栄司	昭和2	二、〇〇〇
42	真宗本願寺派宗制 津村雅量編	昭和2	二、〇〇〇
43	真宗本願寺派宗制 津村雅量編	昭和2	二、〇〇〇
44	浄土教の厳正批判 美藤信少	昭和2	二、〇〇〇
45	浄土教の厳正批判 美藤信少	昭和2	二、〇〇〇
46	高僧叢談 松宮明学	昭和2	二、〇〇〇
47	六華遺音 上原芳太郎	昭和2	二、〇〇〇
48	友松門諸遺集 松宮明学	昭和2	二、〇〇〇
49	友松門諸遺集 松宮明学	昭和2	二、〇〇〇
50	参禅漫録 飯田橋隠	昭和2	二、〇〇〇
51	参禅漫録 飯田橋隠	昭和2	二、〇〇〇
52	王法正論 十善法語 説教学全書 第五編	昭和2	二、〇〇〇
53	王法正論 十善法語 説教学全書 第五編	昭和2	二、〇〇〇
54	姓名学大観 佐々木泰幹	昭和2	二、〇〇〇
55	恋愛占易 米田祐太郎	昭和2	二、〇〇〇
56	恋愛占易 米田祐太郎	昭和2	二、〇〇〇
57	杉本音吉小伝 高橋伝吉	昭和2	二、〇〇〇
58	海舟と鉄舟 鹿島松巷	昭和2	二、〇〇〇
59	海舟と鉄舟 鹿島松巷	昭和2	二、〇〇〇
60	渡辺華山百話 大庭三郎	昭和2	二、〇〇〇
61	小山鹿語類 松波治郎	昭和2	二、〇〇〇
62	奥村五百子 小野賢一郎	昭和2	二、〇〇〇
63	佐久間象山先生 新村出他	昭和2	二、〇〇〇
64	魯迅 竹内好	昭和2	二、〇〇〇
65	源氏物語研究 関みさを	昭和2	二、〇〇〇
66	源氏物語研究 関みさを	昭和2	二、〇〇〇
67	やなぎ櫛評釈 沼波境音	昭和2	二、〇〇〇
68	やなぎ櫛評釈 沼波境音	昭和2	二、〇〇〇
69	児童文学論 坪田譲治	昭和2	二、〇〇〇
70	児童文学論 坪田譲治	昭和2	二、〇〇〇
71	啄木の歌とそのモデル 宮本吉次	昭和2	二、〇〇〇
72	茶川龍之介 吉田精一	昭和2	二、〇〇〇

73	ブレイク詩集 土居光知	昭和2	二、〇〇〇
74	華香句集 大釜彌三郎編	昭和2	二、〇〇〇
75	随筆不斷経 斎藤茂吉	昭和2	二、〇〇〇
76	第一回夏目漱石賞当選作品集 桜菊書院	昭和2	二、〇〇〇
77	在りし日の東洋詩人たち 赤木健介	昭和2	二、〇〇〇
78	在りし日の東洋詩人たち 赤木健介	昭和2	二、〇〇〇
79	支那文学思想史 青木正児	昭和2	二、〇〇〇
80	能楽三昧 竹腰健造	昭和2	二、〇〇〇
81	随筆続々色道 遠山静雄	昭和2	二、〇〇〇
82	味 秋山徳蔵	昭和2	二、〇〇〇
83	舌 秋山徳蔵	昭和2	二、〇〇〇
84	食味 秋山徳蔵	昭和2	二、〇〇〇
85	蕎麥漫筆 多田鉄之助	昭和2	二、〇〇〇
86	蕎麥漫筆 多田鉄之助	昭和2	二、〇〇〇
87	茶 多田鉄之助	昭和2	二、〇〇〇
88	印刷と紙の知識 瀬良俊喜太	昭和2	二、〇〇〇
89	生花の急所を語る 角谷緑三	昭和2	二、〇〇〇
90	広益地錦抄 京都園芸倶楽部	昭和2	二、〇〇〇
91	趣味の盆栽の仕方 吉村巖	昭和2	二、〇〇〇
92	趣味の盆栽の仕方 吉村巖	昭和2	二、〇〇〇
93	趣味の盆栽の仕方 吉村巖	昭和2	二、〇〇〇
94	趣味の盆栽の仕方 吉村巖	昭和2	二、〇〇〇
95	趣味の盆栽の仕方 吉村巖	昭和2	二、〇〇〇
96	航空読本 小川太一郎	昭和2	二、〇〇〇
97	フォード教習指針 日本フォード自動車	昭和2	二、〇〇〇
98	文明 創刊号	昭和2	二、〇〇〇
99	江文化21より38号のうち9冊(新湯)	昭和2	二、〇〇〇
100	伝記%より%のうち42冊	昭和2	二、〇〇〇
101	きよと社 伝記学会	昭和2	二、〇〇〇
102	日本の老舗 白川書院	昭和2	二、〇〇〇
103	新そば 16 26 31 34号 五冊 蕎麦新社	昭和2	二、〇〇〇
104	セザンヌ以後 植田寿蔵	昭和2	二、〇〇〇
105	産業革命 鈴木成高	昭和2	二、〇〇〇
106	人類の起源 棚瀬義爾	昭和2	二、〇〇〇
107	文化の起源 清野謙次	昭和2	二、〇〇〇
108	ヨーロッパの成立 鈴木成高	昭和2	二、〇〇〇
109	旧約聖書 浅野順一	昭和2	二、〇〇〇
110	新約聖書 浅野順一	昭和2	二、〇〇〇
111	旧約聖書の倫理 浅野順一	昭和2	二、〇〇〇

古 書 籍 東 方 書 店

電話 (〇七五) 四九一・二〇七一

千 603 京都市北区小山下内河原町六三

33	年報	昭和十一年	京都一中	三〇〇〇
32	私たちの歩み	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
31	学級経営に関する資料	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
30	創立六十周年記念誌	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
29	海濱五号	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
28	学友会誌	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
27	京都府教育会最近十年史	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
26	会誌	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
25	神陵小史	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
24	どんぐり一号	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
23	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
22	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
21	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
20	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
19	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
18	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
17	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
16	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
15	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
14	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
13	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
12	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
11	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
10	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
9	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
8	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
7	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
6	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
5	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
4	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
3	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
2	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
1	三高理一乙	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
34	愛知師範同窓会報	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
35	白梅二号	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
36	京都高工会誌	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
37	同窓会誌	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
38	小学国史尋常科用	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
39	高等小学国史	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
40	尋常小学国史	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
41	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
42	尋常小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
43	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
44	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
45	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
46	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
47	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
48	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
49	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
50	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
51	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
52	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
53	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
54	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
55	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
56	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
57	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
58	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
59	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
60	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
61	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
62	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
63	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
64	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
65	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
66	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
67	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
68	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
69	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
70	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
71	高等小学地理書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
72	小学校社会科学習指導要項補説	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
73	尋常小学理科書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
74	新青年学校教科書	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
75	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
76	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
77	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
78	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
79	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
80	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
81	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
82	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
83	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
84	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
85	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
86	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
87	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
88	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
89	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
90	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
91	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
92	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
93	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
94	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
95	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
96	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
97	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
98	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
99	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
100	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
101	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
102	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
103	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
104	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
105	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
106	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
107	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇
108	国民礼法	昭和十一年	京教組	一〇〇〇

電話(〇七五) 三三一一五八八
振替 京都 五一三三二一六

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

1	『書物展覧』(昭6 / 7)(終刊)	臨川書店	昭59 / 三〇〇〇
2	京阪書籍商史	藤田福城	昭57 / 一五〇〇
3	増訂慶長以来書賣集覽	井上和雄	昭45 / 二〇〇〇
4	訪書余録 二冊揃	和田維四郎	昭53 / 三〇〇〇
5	業余稿叢 私家版	木村三四吾	昭51 / 一五〇〇
6	本朝書籍目録考證	和田英松	昭45 / 一五〇〇
7	日本英学資料解題	大阪女子大学 山田忠雄	昭57 / 英一〇〇〇
8	本邦辞書史論叢	明治書院	昭42 / 一〇〇〇
9	月刊文法 創刊号(終刊)	明治書院	昭43 / 八〇〇
10	上代語中古語の研究	出辺正男	昭51 / 六〇〇
11	なまめかし	北村英子	昭50 / 一六〇〇
12	近世語彙の歴史的 연구	佐藤 亨	昭55 / 六、〇〇〇
13	伊波普猷全集 一一冊揃	平凡社	昭49 / 七、〇〇〇
14	講座日本語の文法 七冊揃	明治書院	昭43 / 三、〇〇〇
15	講座解釈と文法 七冊揃	明治書院	昭35 / 三、〇〇〇
16	講座日本文学の争点 六冊揃	明治書院	昭44 / 三、〇〇〇
17	国文学註釈叢書 一九冊揃	名著刊行会	昭4〇 / 二、〇〇〇
18	契沖全集・長流全集 一一冊揃	朝日新聞	大15 / 六、〇〇〇
19	和歌文学大辞典 附図共	明治書院	昭39 / 六、〇〇〇
20	拾遺和歌集 寂思本 日本古典文学館	明治書院	昭48 / 三、〇〇〇
21	古今和歌集 滑輔本 二冊揃	〃	昭48 / 三、〇〇〇
22	山家心集 伝西行自筆本	〃	昭48 / 三、〇〇〇
23	和歌集心奪抄抽肝要	堀部正二	昭44 / 三、〇〇〇
24	物語和歌総覧 本文篇	久曾神昇	昭49 / 三、〇〇〇
25	日本歌学と中学詩学	太田青丘	昭48 / 一、〇〇〇
26	歌謡史の研究 今様考	新間進一	昭22 / 一、〇〇〇
27	日本歌謡の研究	浅野建二	昭36 / 六、〇〇〇
28	歌合の研究	峯岸重義	昭33 / 一、〇〇〇
29	勅撰歌人伝の研究	杉崎遙次	昭39 / 一、〇〇〇
30	古今六帖の萬葉歌	中西進	昭39 / 一、〇〇〇
31	新古今和歌集の研究	有吉保	昭43 / 一、〇〇〇
32	早歌の研究	外村久江	昭40 / 一、〇〇〇
33	連歌史の研究	島津忠夫	昭44 / 三、〇〇〇

34	連歌と中世文芸	金子博士古稀記念論集	昭52	六,000
35	連歌古註釈の研究	金子金治郎	昭49	一五,000
36	秋成真淵論	山本嘉將	昭48	一六,000
37	積成金歌集とその研究	浅野三平	昭44	四,000
38	歌人上田秋成	吉江久弥	昭58	三,000
39	校本萬葉集 一七冊揃	岩波書店	昭57	五,000
40	萬葉集叢書 一一冊揃	臨川書店	昭47	六,000
41	萬葉集注釈 一二冊揃	中央公論社	昭32	七,000
42	作者別萬葉集評釈全集 八冊揃 非凡人社	中央公論社	昭10	五,000
43	金沢本萬葉集 日本古典文学館	昭48	四,000	
44	古歌集 萬葉和歌集成 室町前期	昭59	三,000	
45	萬葉集に於ける表現の研究	瀬谷虎雄	昭41	一八,000
46	萬葉集の誦詠歌	瀬古 確	昭36	二七,000
47	山上憶良	久米常民	昭47	一六,000
48	正岡子規と萬葉集	中西 雅一	昭48	四,000
49	萬葉植物新考 増訂版	武智 進	昭47	一六,000
50	萬葉動物考 正・続	松田 修	昭45	一八,000
51	日本神話の研究 四冊揃	東 光治	昭19	三,000
52	古代氏族伝承の研究	松村久雄	昭46	一五,000
53	赤木文庫本 神道集 貴重古典籍叢刊	松谷久雄	昭46	一六,000
54	神道集 河野本 上・下	渡辺一近藤	昭37	二六,000
55	標注古風土記	栗田 寛	明32	三,000
56	日本書紀研究 一二冊揃	三品彰英	昭44	一六,000
57	日本書紀の研究	丸山二郎	昭30	二,000
58	古語拾遺新註 上・下	池辺真郎	昭18	三,000
59	平安朝文学の文芸学的研究	仲田庸幸	昭42	二二,000
60	物語文学の研究	金子武雄	昭49	四,000
61	伊勢物語の研究 二冊揃	片桐洋一	昭56	五,000
62	大和物語詳解	武田祐吉・水野駒雄	昭39	一五,000
63	将門記 研究と資料	古典遺産の会	昭38	一四,000
64	落窪物語大成 和装本	中村秋夫	大12	二五,000
65	宇津保物語 前田家本 八冊揃	古典文庫	昭32	五,000
66	枕冊子本文の研究	田中重太郎	昭35	三,000
67	清少納言枕冊子研究	田中重太郎	昭46	一八,000
68	和泉式部日記の研究	大橋清孝	昭36	四,000
69	校註夜半の寢覚 藤田徳太郎・増淵恒吉	尊経閣叢刊	昭8	一,000
70	前田家本 寢覚 三冊揃	小松茂美	昭39	三,000
71	校本浜松中納言物語	横山 重	昭37	一,000
72	室町時代物語集 五冊揃			

73	無常觀の傳承 神道大辭典 三冊揃	西田正好	昭51	天、000
74	時衆と中世文芸	金井清光	昭59	六、000
75	宇治拾遺物語總索引	増田繁夫	昭50	一八、000
76	古鈔本 宝物集	貴重古典籍叢刊	昭48	四、000
77	とりかへばや 上・下	古典文庫	昭36	二、000
78	方丈記總索引	鈴木弘道	昭44	五、000
79	語り物文芸の發生	青木昌子	昭40	八、000
80	語り物文芸の發生	草部了仁	昭41	六、000
81	十訓抄詳解(改裝本)	石橋高堂	昭17	五、000
82	參考源平盛衰記 三冊揃	臨川書店	昭57	六、000
83	長門本平家物語 七冊揃	古典資料	昭49	三、000
84	平家物語の説話的考察	阪口玄章	昭18	三、000
85	平家物語の研究 三冊揃	佐々木八郎	昭23	三、000
86	平家物語研究序説	山下宏明	昭42	四、000
87	平家物語 百二十句本 六冊揃	古典文庫	昭43	四、000
88	西源院本 太平記	鷲尾順敷	昭11	三、000
89	太平記の比較文学的研究	森田欣	昭51	一、000
90	江戸文学と中国文学	麻生磯次	昭32	二、000
91	定本西鶴全集 一五冊揃	中央公論社	昭51	六、000
92	完本色道大鏡 三冊 藤本箕山・野間光辰	角川書店	昭36	六、000
93	校本芭蕉全集 一〇冊揃	山本唯一	昭37	六、000
94	芭蕉七部集總索引	浅野信	昭57	三、000
95	七部集連向炭俵注釈	高藤武信	昭47	三、000
96	奥の細道歌仙評釈	山本唯一	昭46	三、000
97	蕪村向合集印・翻刻・索引	貴重古典籍叢刊	昭52	五、000
98	宗祇句集	塩井梅仙	昭8	四、000
99	柳塘拾遺詳解 故事部	阿達義雄	昭12	三、000
100	江戸川柳の史的研究	大曲駒村	昭43	二、000
101	川柳岡場所考	岡田朝太郎	昭2	二、000
102	寛政改革と柳樽の改版	古典文庫	昭六、000	
103	日本史伝川柳狂句 二七冊揃	古典文庫	昭三、000	
104	和泉流狂言集 二〇冊揃	古文蔵	昭53	三、000
105	謡曲二百五十番集・索引	坂元雪鳥	昭47	五、000
106	謡曲雪鳥能評全集 二冊揃	能勢朝次	昭48	五、000
107	世阿弥十六部集群釈 二冊揃	博文館	昭三、000	
108	謡曲叢書 三冊揃	花田淳雲	昭13	三、000
109	謡曲に現れたる仏教		昭13	三、000

八木書店古書部

電話(〇七五)八二二三八九〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

- 1 神道御身被様 古筆 一幅 室町期 三〇〇〇
2 西京四條北側演劇廣告 木版 各冊明116各冊 二五〇〇
3 算木七竹共 扇子一本 明治初 三〇〇〇
4 華頂八景 閣樓雪景 扇子一本 明治初 三〇〇〇
5 宮嶋伝記 東三河郷土 資料第四編 200限定昭9 三〇〇〇
6 孟兆十札帖 折帳 折帳 主人不相云々 嘉永3 三〇〇〇
7 頼山陽書蹟帖 折帳 主人不相云々 嘉永3 三〇〇〇
8 頼山陽書蹟帖 折帳 主人不相云々 嘉永3 三〇〇〇
9 頼山陽書蹟帖 折帳 主人不相云々 嘉永3 三〇〇〇
10 緊要善惡種蒔鏡和讃 小本銅版 六角鳥丸古居刊 明28 三〇〇〇
11 本居宣長草稿本 清泉自筆 明36 三〇〇〇
12 算学教授講本 卷2 平面幾何第2 貞享2 三〇〇〇
13 十不二門指要 上下2冊 明38 三〇〇〇
14 20世紀純文の資料 藤井鶴城編 明38 三〇〇〇
15 西山派本山神林寺誌 稻村修道 大2 二五〇〇
16 肥後国阿蘇山麓黄にて去年3月鳴動報告 通 江戸末 三〇〇〇
17 絵本箱根山靈伝 5冊 一巻欠 汚 享和3 三〇〇〇
18 古今奇手象戯指方秘書 東武桂林堂江戸本 江戸末 八〇〇〇
19 白隠和尚荒年施行歌 円通翁補刻 天保8 二五〇〇
20 念仏行者参詣心得草 眞宗 弘化4 二五〇〇
21 南禅寺住持 無相神師筆 宝珠画賛 一幅 二五〇〇
22 南朝遺墨集 小本10丁 香風社 墨摺 明10 二〇〇〇
23 山梨墨郡村便覧 小沢幸民 虫入 明12 二〇〇〇
24 西国33所巡礼に関する目録 田中緑江 昭6 二〇〇〇
25 新刀篋口物成忠堂和郎依本版絵入柳香著 明16 二〇〇〇
26 創業垂統 辰尾龍著 寛政8 二〇〇〇
27 論印絶句十首正統2冊 映入上海石印虫入 五〇〇〇
28 玉瀾龍子筆草廬の子彦根藩儒小品墨画文政4没 三〇〇〇
29 良山堂印譜 17丁 明23 二〇〇〇
30 大神宮大々御神樂奉奏御図 墨摺一紙 明初 二〇〇〇
31 貫名海屋筆 南画山水 一幅 二〇〇〇
32 庭訓往来 江戸末 二〇〇〇
33 女鉢本時頼記五段目六行本京墨屋版虫入延享頃 二〇〇〇
- 34 小伊勢さん(法鏡) 津市松本弘光 昭5 二五〇〇
35 合類大因縁集 卷5と12合本 貞享3 二〇〇〇
36 浄土文類聚鈔墨抄入出 門傳室合冊親筆作 寛永13 三〇〇〇
37 今世説 仁和寺障丹籠撰 民国初 二〇〇〇
38 古今名家南画 覽番附一紙大国有誠銅版 天保5 二〇〇〇
39 増補冠辞例 横形小本 江戸末 二〇〇〇
40 柿田冠辞 写本 江戸末 二〇〇〇
41 山元春筆 美人之図 墨絵御子息箱書 大2 二〇〇〇
42 明治天皇御聖德百首御製かるた 大2 二〇〇〇
43 詩句題韻龍編總集 八冊小本映入上海刊光緒11 五〇〇〇
44 文字研究第33輯小牧教授還暦記念特輯九大内 昭18 二〇〇〇
45 山田茂平常典書狀涉川伴五郎系南君に出会ふ云々 傷有 八〇〇〇
46 越前福井藩御書 篤胤講説篤記聴 文政12 二〇〇〇
47 百人一首古説 下巻 瀧川時記筆 江戸末 三〇〇〇
48 井上正鉄翁御書 写本 文政8 三〇〇〇
49 新作替文句 法道のびき 惠観作 明治 三〇〇〇
50 阿陽車鑑末書下巻八丁欠春日惣次郎筆口伝天正12 三〇〇〇
51 玲瓏隨筆 沢庵神師筆上下2冊(追善之葉) 大6 三〇〇〇
52 東興 結城宗公肖像 墨摺一幅 明30 三〇〇〇
53 西洋今昔物語 英和對訳 吉田幾次郎註 明40 二〇〇〇
54 立離之図 一幅 筆者不詳狩野派印有 江戸末 八〇〇〇
55 東京奥鳴門吉田家愛玩品大札目録 煙草入れ外 大9 三〇〇〇
56 長徳山白心上人42章録 浄土宗の大徳也 宝永6 三〇〇〇
57 於大阪第五回内閣勸業博覧会案内地図一紙 昭25 二〇〇〇
58 科学グラフ 特集鉄道の話 昭25 二〇〇〇
59 狂言物語 三宅藤九郎 昭21 二〇〇〇
60 賀茂御祖神社本社官分報告并祝詞文 康功筆 明7 二〇〇〇
61 歴代御殿高取領配分寛帳 康功筆 明2 二〇〇〇
62 典藥寮医(産科医)賀川満定碑文拓本一紙 天保4没 二〇〇〇
63 文庫1号バラ 36冊 岩波文庫の会 昭26 二〇〇〇
64 萬通字林玉篇 汚 明42 二〇〇〇
65 大阪商船株式會社50年史 汚 昭9 二〇〇〇
66 人文地理辞典 王藤暢編 初版 昭32 二〇〇〇
67 人種学 地学叢書の内 鳥居龍藏 明37 二〇〇〇
68 英文権誌王 野間清治 写本 一五〇〇
69 通仙伝巻上 人相口伝書 写本 江戸末 二〇〇〇
70 京都民主市政 京都市政研究会 昭50 二〇〇〇
71 裁判の書 三宅正太郎 養徳社刊 背傷 昭23 二〇〇〇
- 73 人形芝居の研究 石割松太郎 背傷 初版 昭8 三〇〇〇
74 野鳩の宿 下田得美 少女小説 大14 二〇〇〇
75 刊行論文集 京大経済研究所 昭43 二〇〇〇
76 独逸新刊書展示会目録 一六九年 二〇〇〇
77 歌集 波濤 齊藤瀧 昭16 二〇〇〇
78 幾内東海閣等全国八州区別表木版摺物紙 江戸末 三〇〇〇
79 地譜一札之事下京吉水町区長杉浦三郎兵衛宛 明14 二〇〇〇
80 家屋券狀一紙寺之内大宮東妙蓮寺前町 明3 二〇〇〇
81 御本山御安心 件於公儀御裁件付候 紙眞宗 八〇〇〇
82 龍谷枝子雲莊筆 一行詩 一絹 文久3 三〇〇〇
83 大豆代見様人足賃割出様 三井家筆 紙 明治中 二〇〇〇
84 福井県武生藩寫真館写ス 中学生3人 枚 明治中 二〇〇〇
85 度牒一紙 浄土宗菅長山下現有筆 明44 三〇〇〇
86 三井組十人組為替御用取捨所文書一通 慶応2 三〇〇〇
87 北村篤所筆(伊兵衛) 仁齊門 書翰一通 三〇〇〇
88 近世経済思想史論 河上肇 汚 大9 二〇〇〇
89 京都及附近修学旅行案内 川島元次郎 大4 三〇〇〇
90 童話 子供の天下 日本児童文化協會背傷初版 昭15 二〇〇〇
91 北村九起筆 句入り消息一通東山芭蕉堂作 明治初 三〇〇〇
92 芹澤銑介作 型染熨斗一枚(マツレット) 三〇〇〇
93 翠岳老師筆 猛虎一声山月高一紙古筆傷有 三〇〇〇
94 豆木大陣太鼓譜書墨摺一紙江州蒲生郡佐々木社 三〇〇〇
95 中島来草画伯筆消息一通封筒付 明4没 三〇〇〇
96 命名牒 花押判斷天杜神道派山口其覺筆 江戸末 三〇〇〇
97 梅津村に就ての奉願書 八通 嘉永 二五〇〇
98 喫茶去 劍光筆 一紙 三〇〇〇
99 南蛮史料展覧会出品目録一紙 於東京三越 昭3 二〇〇〇
100 塩谷宏陰筆(名世弘)消息一通安井息軒宛住所入 一五〇〇
101 兵法神靈一幅鹿鳴香取諏訪大神 山鹿流 五〇〇〇
102 頼又次郎筆 消息一通 山陽息子 三〇〇〇
103 稲盛筆 句入り消息一通 弘化3 五〇〇〇
104 血止藥 神力散 南都奥村氏製 一服 弘化3 三〇〇〇
105 奥州箱館 浪田屋元目録一紙 明8 三〇〇〇
106 播州加東郡船坂村善照寺阿弥陀如来縁起墨摺一紙 五〇〇〇
107 袋師友湖筆 帛紗納品寛狀一紙茶入宗慎宛 三〇〇〇
108 家屋敷活券狀預り 札之事榎木町黒門 安永2 三〇〇〇
109 阪神地方水害絵葉書 15枚 昭13 二〇〇〇
110 香山龍畫筆 梅之図 紙本本願寺高宗寺頭 明18没 八〇〇〇
111 釈迦まんたら絵 一幅 傷有 清朝初 二〇〇〇

定本 国訳秘密儀軌

国訳秘密儀軌編纂局編

真言密教における作法様式を正しく伝える密教儀軌の基幹書。再版にあたり、従来の「正編」「続編」を一本にまとめ、索引を付し「決定版」とす。真言密教研究者必見！
全35巻別巻1・揃定価122500円

仏教二千四百年

横山宗一郎写真集

釈迦生誕の地から奈良までの道——仏教遺跡に魅せられた著者が12年間にわたり撮り続けた写真が物語る、インド聖地より日本に到る仏教伝来2400年の壮大なドラマ！
オールカラー・定価8000円

畔上樸仙禅師遺稿

飯田利行編

遺物や日誌、書簡等を駆使し、禅師の香語・詩偈をはじめとする遺稿を整理、書き下し文と注記を添えて編んだ宗門史上貴重な証言記録。付＝伝記・年譜・法系譜・索引。
定価16000円

*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18 電話03(917)8287

日本大辞書

山田美妙著

奇才美妙が精魂を傾けた我国国語書史上異色の大辞書。
四六倍判／背綴上製／総二六頁／全一冊

▼定価二六、000円

日本語源

賀茂百樹著

基本語彙七千を収録する日本語のルーツ辞典。古典よりの例証豊富。
A5判／背綴上製／総二六頁／全一冊

▼定価三〇、000円

頼山陽書翰集

徳富蘇峰・木崎好尚・光吉洸華編

生涯にわたる二三七通の書翰を収録。その他真蹟・図版多数収める。
A5判／クロス装丁／総七三頁／全三冊

▼定価五、000円

集古十種

松平定信編

谷文晁、紫野栗山、屋代弘賢らの取材による古美術図解事典。
菊判／上製／総約二二頁／全四冊

▼定価三六、000円

補正朝陽字鑑

高田竹山著

古来の説文字と近代考証学の成果の統合から生まれた古体文字百科。
四六倍判／擬似和装／総二六頁／全五冊

▼定価七六、000円

古籀篇

高田竹山著

収録字数三、000字。竹山の独力で成った世界最大の古文・大篆字典。
和装本／総二二頁／全十四冊

▼定価一五〇、000円

竹山用印

高田泰三編

竹山が自ら刻し、あるいは愛用した原印四十顆を手押した貴重本。
唐本仕立／本文四上じ／全一冊

▼定価三九、000円

基本的名著の再評価と普及

名著普及会

■ご注文は直接下記までお願いします

〒152 東京都目黒区平町1-16-6

TEL 03(724)8031

■商品を無料で配送

■代金後払い

内容見本請求はF.O.係まで



臨川書店

101 606 京都市左京区今出川通川端東入 50 M
千代田区神田駿河台 二 一 一 一 六☎ 03 075 293 721
5 0 2 1

〈第一期〉 京都府郷土誌叢刊 〈府南部〉

京都府山科町誌 6,500円

総464頁・折込附図1枚・写真32枚
京と近江を結ぶ交通の要衝として発展してきた山科の歴史を詳述。(昭和5年刊の復刊)

京都府伏見町誌 8,500円

総664頁・折込附図8枚・写真19枚
京都から大阪の中継点として発達した伏見の変遷を語る。(昭和3年刊の復刊)

京都府紀伊郡誌 5,400円

総344頁・折込附図2枚・写真12枚
紀伊郡とは現在の南区・伏見区の一部。多くの名勝旧跡をもつ。(大正4年刊の復刊)

山城綴喜郡誌 6,400円

総396頁・折込附図2枚・写真12枚
山城南部、綴喜郡内の古文書・史料類を集めた郷土史文献資料。(明治41年刊の復刊)

京都府相楽郡誌 6,600円

総436頁・折込附図1枚・写真4枚
山城南端、近畿の中央に位置する相楽を多方面から捉える。(大正9年刊の復刊)

乙訓郡誌 6,500円

総414頁・写真10枚
現在著しい変貌を成している乙訓の古今の姿を浮彫りにする。(昭和15年刊の復刊)

京都府宇治郡誌 4,500円

総252頁
京都の中でも特有の歴史と多くの文化遺産をもつ宇治の全貌を現す。(大正15年刊の復刊)

- A5判・上製クロス装・ケース入
- 全7冊特別セット定価 44,000円
- 詳しくは小社営業部までお問合せ下さい。内容見本お送りします。

好評発売中 /

日本仏教美術史研究

中野玄三著

観音の造形から玄奘三蔵絵まで。両分野に亘り独自の仏教美術史論を展開してきた著者積年の諸論文・彫刻化傾向の中での総合的主張はきわめてユニーク。広く美術史・仏教史に文化史研究に必須の書。▼A5判・五七〇頁・写真一〇九点・定価二二〇〇円

論集 空海と綜芸種智院

弘法大師の教育・上巻

論集 空海といろは歌

弘法大師の教育・下巻

久木幸男・小山田和夫編

本書では明治以後発表された論文により庶民教育の先駆者空海の全貌を明かす。上巻はその教育思想及び綜芸種智院に関する論文28篇、下巻では「いろは歌」・『実語教』の作者に関する論文27篇収録。▼A5判・平均四〇〇頁・定価各八四〇〇円

最新刊 /

都市発達史研究

〔解説〕 脇田晴子

第一巻／好評発売中／

A5判／四〇〇頁／定価六、八〇〇円

実学史研究Ⅰ

実学資料研究会

「実学とは、生活機能を高める社会経済の動態を誘発・継起させる作用をなす諸学の総称である」との視点から、民衆の生活経験に基づいて生れた記録・機器資料の発掘を通して大衆の活動の実情を捉えようという実学資料研究会(代表／末中哲夫)による研究集大成第一輯。以後年一冊継続刊行。▼A5判／一八〇頁／定価四、八〇〇円

多紀氏の事蹟

森潤三郎著

江戸幕府の官医として漢方医学の指導的立場にあった多紀氏一統の履歴とその業績を、豊富な史料を基にさまざまな角度から跡づけた貴重な一書。新装再版にあたって小見出し・索引を新たに付け加えた。▼A5判／三〇〇頁／定価六、五〇〇円

本社 京都市左京区田中閨町 2-7
〒606 (075) 751-1781

思文閣出版

支社 東京都千代田区三崎町 2-20
〒101 (03) 263-6348